

枚方市まちづくりワークショップ
報 告 書

平成 26 年 5 月

目 次

1. まちづくりワークショップの概要

実施の目的	1
実施の方法	1
参加メンバー	2
開催の経過	3

2. まちづくりワークショップによる意見・提案

分野別テーマ①「環境を守り育てるために」	4
分野別テーマ②「安全・安心に暮らすために」	5
分野別テーマ③「活気・魅力ある暮らしのために」	6
分野別テーマ④「健康で心豊かに暮らすために」	7
分野別テーマ⑤「子どもを育み、学び続けるために」	8
各分野でみられた共通課題	9
枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）の提案	9

資料

各回のワークショップにおける意見・提案の詳細	11~44
------------------------	-------	-------

1. まちづくりワークショップの概要

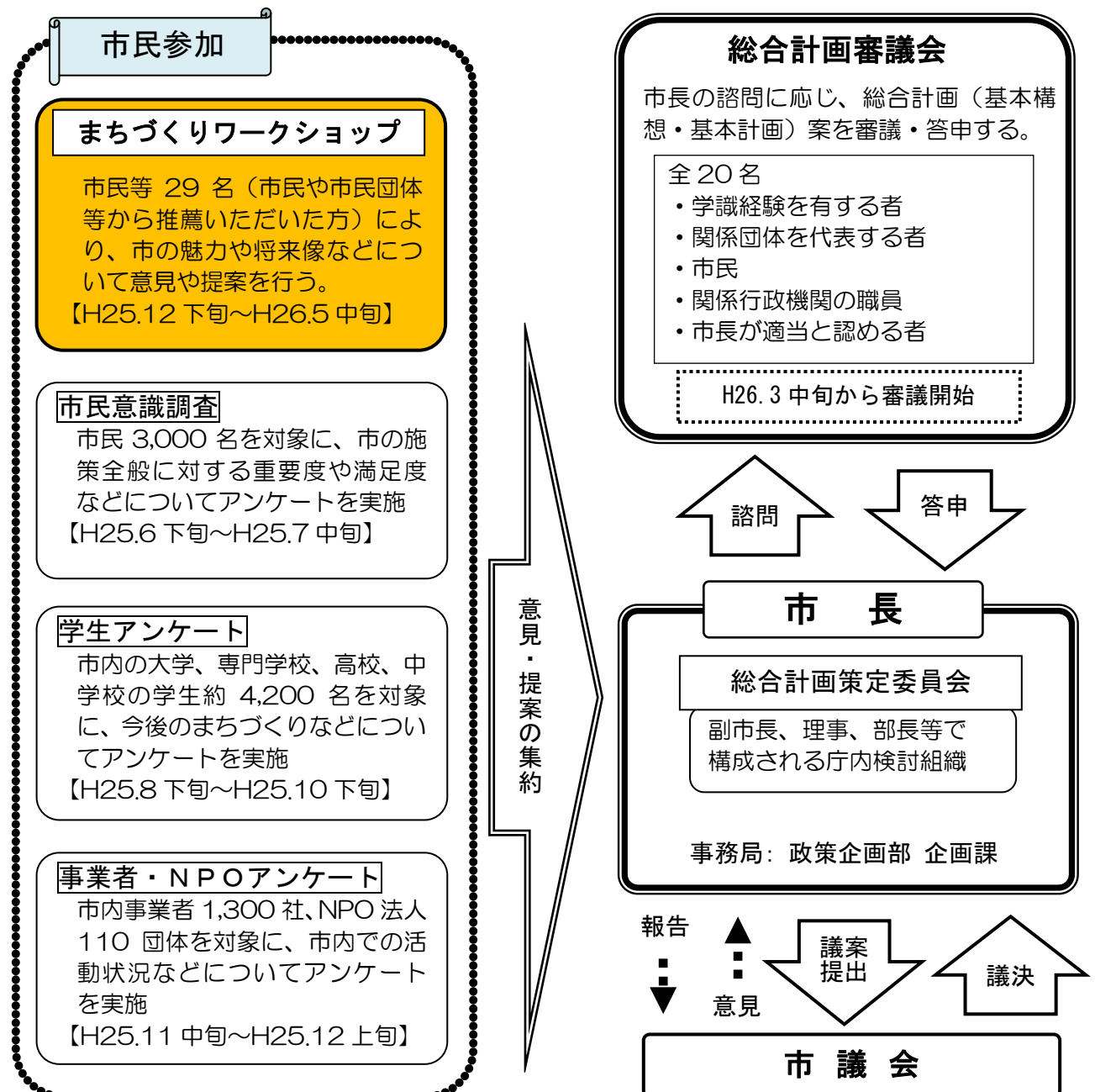
実施の目的

本市の将来像を定める「第5次枚方市総合計画」の策定に向けて、本市の魅力やめざすべき姿などについて、市民や市民団体等の代表者の皆様に話し合ってもらい、意見・提案をいただくことを目的に実施。

実施の方法

全29名の参加者が4つの班に分かれ、班ごとにその回の共通テーマ（環境、健康、教育等）について、「市の魅力や課題」のほか、「将来のめざすべき姿」、「必要な取り組み」などについて意見を出し合った後に、各班の発表により、ワークショップ全体の意見を確認。

【第5次枚方市総合計画の策定体制】



参加メンバー

参加メンバーは、満 18 歳以上で市内在住・在職・在学の方を対象に広報紙等により募集を行った結果、応募いただいた 21 名と市民団体等から推薦いただいた 8 名の計 29 名で構成。

参加メンバー 一覧 (全 29 名)

(50 音順)

- 伊東 明子 (いとう あきこ) さん
- 伊東 和彦 (いとう かずひこ) さん
- 井上 好子 (いのうえ よしこ) さん
- 岩佐 辰夫 (いわさ たつお) さん
- 上山 芳明 (うえやま よしあき) さん <枚方青年会議所>
- 大西 茂 (おおにし しげる) さん
- 奥野 勇 (おくの いさむ) さん <枚方市社会福祉協議会>
- 片山 亜希子 (かたやま あきこ) さん
- 河田 輝彦 (かわだ てるひこ) さん
- 岸本 京子 (きしもと きょうこ) さん
- 北川 弘毅 (きたがわ ひろき) さん
- 工藤 友梨奈 (くどう ゆりな) さん
- 栗田 陽介 (くりた ようすけ) さん
- 小西 輝夫 (こにし てるお) さん <枚方市老人クラブ連合会>
- 小林 一郎 (こばやし いちろう) さん <枚方市 P T A 協議会>
- 佐野 真弓 (さの まゆみ) さん <枚方市文化国際財団>
- 品川 芳洋 (しながわ よしひろ) さん
- 田中 靖之 (たなか やすゆき) さん
- 徳永 憲治 (とくなが けんじ) さん
- 豊高 明枝 (とよたか あきえ) さん
- 中道 淳史 (なかみち あつし) さん
- 二宮 弘登 (にのみや ひろと) さん
- 福川 妃路子 (ふくかわ ひろこ) さん <枚方市消防団>
- 藤木 正 (ふじき ただし) さん
- 藤本 正治 (ふじもと しょうじ) さん
- 丸井 晶子 (まるい あきこ) さん <ひらかた環境ネットワーク会議>
- 村島 公義 (むらしま ひろよし) さん
- 湯川 大地 (ゆかわ だいち) さん
- 吉川 和信 (よしかわ かずのぶ) さん <枚方市スポーツ推進委員協議会>

開催の経過

回	内容・テーマ
第1回	○市長あいさつ ○ワークショップの概要説明
H25. 12. 21(土) 9:30~11:30	○テーマに基づいて検討 「枚方市の良いところ、悪いところ」 ※枚方市の印象（良いところ、悪いところ）について意見を出し合った。
第2回	○テーマに基づいて検討 「環境を守り育てるために」 ※テーマについて、こうなったらいいと思うこと、そのために必要なことなどについて意見を出し合った。
H26. 1. 16(木) 18:00~20:00	
第3回	○テーマに基づいて検討 「安全・安心に暮らすために」 ※テーマについて、こうなったらいいと思うこと、そのために必要なことなどについて意見を出し合った。
H26. 2. 9(日) 9:30~11:30	
第4回	○テーマに基づいて検討 「活気・魅力ある暮らしのために」 ※テーマについて、こうなったらいいと思うこと、そのために必要なことなどについて意見を出し合った。
H26. 2. 24(月) 18:00~20:00	
第5回	○テーマに基づいて検討 「健康で心豊かに暮らすために」 ※テーマについて、こうなったらいいと思うこと、そのために必要なことなどについて意見を出し合った。
H26. 3. 16(日) 9:30~11:30	
第6回	○テーマに基づいて検討 「子どもを育み、学び続けるために」 ※テーマについて、こうなったらいいと思うこと、そのために必要なことなどについて意見を出し合った。
H26. 4. 8(火) 18:00~20:00	
第7回	○テーマに基づいて検討 「枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）」 ※これまでのワークショップを踏まえ、枚方市の魅力として何を発信していくべきか、また、何を重点化し市の特徴をつくっていくべきかなどについて意見を出し合った。
H26. 4. 26(土) 9:30~11:30	
第8回	○「まちづくりワークショップ報告書」の確認 ※総合計画審議会へ報告する「まちづくりワークショップ報告書」の内容を確認した。
H26. 5. 18(日) 9:30~11:30	○市長との懇談会（「まちづくりワークショップを終えて」）

2. まちづくりワークショップによる意見・提案

分野別テーマ①

環境を守り育てるために

めざすべきまちの姿

○「緑が豊かなまち」に ～ 都市環境とのバランスが大切 ～

豊かな緑など自然を大切にすべきであり、自然に対し過度な保護をせず、生物多様性のあるまちを目指すべきである。その中で、自然と都市環境・安全面とのバランス、企業立地と住環境との調和を図りながら進めることが必要である。

○ごみを減らし「美しい環境を保つまち」に

地域での美化活動等による道路・公園などの清掃の充実や街路樹の剪定のほか、ポイ捨てや歩きタバコの防止強化、商業施設へのレジ袋等の総量規制など、美しい環境を保つための仕組みが必要である。

○「環境教育」の充実を

正しい環境教育を行うことが重要である。子どもだけでなく、大人や企業も含め環境意識の向上が必要で、担い手としては、行政のほか、地域や学生も参加し、一人ひとりが情報発信者となるべきである。

また、公園や緑地でのイベントなどで世代間交流を図りながら、環境に対する理解を深めていくべきである。

○「行政と地域の連携」による取り組みを

環境保全の取り組みには、行政と地域の連携が欠かせない。市は取り組み内容やその効果を市民にわかりやすく PR し、市民は省エネなど環境に負荷をかけない暮らしを意識するなど、互いが両輪となって進めていくことが重要である。

必要な取り組みとしてあげられるもの

- 森林保全（植林・植樹、里山オーナー制度、緑化ファイナンス）
- 生態系マップ・緑化マップの作成、ビオトープの設置
- 地域の美化活動などによる道路・公園・河川の清掃の充実、タバコに対する罰金制度
- 緑化指数の目標設定、市の窓口の明確化（公園利用に関してなど）
- みんなで省エネに取り組む特別日の設定、緑のカーテンの設置
- 資源循環の検討（太陽光・風力発電施設の設置、バイオマス発電の研究）、ごみの分別
- 大型商業施設へのビニール袋消費枠設定（課税）、企業への環境保全支援
- 正しい環境教育（地域が学校へ出向くなど産民学官の協力による教育、大人への教育）
- 公共の制度（カウンセラー制度など）に市民が積極的に参加、環境ボランティアの養成
- 公園や緑地を核とした世代間交流（市主催の環境まつりなど）
- 環境基本条例・計画の改正等に市民の意見を反映
- 環境に関する情報発信力の強化（「政策」・「市民行動」・「効果」の連関がわかる広報）

※その他の意見については、資料「各回のワークショップにおける意見・提案の詳細」のとおり。

安全・安心に暮らすために

めざすべきまちの姿

○「災害に強いまち」に

災害に強くなることが重要である。医薬品などの備蓄対策や迅速な緊急情報の発信のほか、地域では避難訓練を繰り返し行うとともに、日頃から人づきあいを深めることが必要である。

○「安全に歩けるまち」に

安全に歩き、自転車に乗れるよう、歩道・自転車道の整備等による歩車分離を強化すべきである。整備には行政が現場を十分に知り、優先順位をつけながら行うべきである。

○「犯罪の少ないまち」に

防犯の強化が重要である。夜間の安全やネット犯罪などの防止に向けて、街灯・防犯灯の充実、行政からの情報発信のほか、住民間のつきあいが大切である。

○「コミュニケーション」の充実を ～人づきあい・コミュニティの強化が大切～

安全・安心に暮らすためには、「コミュニケーション」による人づきあいが欠かせず、互いに協力し合えるコミュニティづくりが重要である。

また、コミュニケーションについては市民間のほか、行政間、市民と行政との間の意思疎通が必要で、それが、自助、共助、公助の切れ目ないネットワークにつながる。

○「わかりやすくタイムリーな情報発信」を

行政からの災害・犯罪などに関する情報については、市民にわかりやすく、よりタイムリーに発信することが必要である。

必要な取り組みとしてあげられるもの

- 医薬品の備蓄（市による巨大備蓄など）、安全な水の確保（古い水道管の更新など）
- 消防無線のデジタル化、地震や水害など災害の種別に応じた避難所の設置
- 小さな防災拠点の設置（交番・郵便局などへの資機材設置など）
- 市全体での防災フォーラムの実施
- 安心して歩ける道路を整備するための予算の重点化（行政が現場を知り評価した上での優先順位付けなど）
- 歩車分離（自転車の通行区分）、自転車の運転マナーの向上
- 食の安全に向けた農の振興、地産地消、子どもへの食育の充実
- 避難訓練・交通ルールの繰り返しの訓練
- 街灯の増設、防犯灯のLED化、警察による夜間の子どもの見守り
- 人づきあい・コミュニティの強化（地域でご近所に関心を持つことなど）
- 安全安心のタイムリーな情報発信（読みやすい広報紙、目にする場所の電光掲示板など）
- 様々な相談が一括で受けられる行政窓口・システムづくり

※その他の意見については、資料「各回のワークショップにおける意見・提案の詳細」のとおり。

活気・魅力ある暮らしのために

めざすべきまちの姿

○「歴史文化芸術を感じられるまち」に

市の活気や魅力を生み出すためには、市に残る歴史文化などの地域資源を活用すべきである。史跡や枚方宿、菊人形、水運など様々な観光資源を充実し周知することで、集客につなげ、観光が盛んなまちにしていくべきである。また、小さい頃から芸術・音楽にふれられる環境づくりが大切で、文化芸術ホールの整備なども必要である。

○「枚方市駅周辺の活性化」を

市の玄関口・顔となる枚方市駅周辺の活性化が重要である。高層ビル化のほか、商業や文化、行政など機能別の集積、景観に配慮したまちなみなど、人が集まる市街地の整備に向けて将来ビジョンをもって進めていくべきである。

○「市内大学との連携」を

～ 世代間交流で学生と地域とのつながりを ～

市の地域資源である市内6大学との連携を進めるべきであり、学生と地域が交流することで、学生の力を福祉やコミュニティなどの活動に活用していくことが必要である。また、大学と行政、大学同士の連携も必要で、学生に引き続き枚方市に住んでもらえるよう、企業誘致による雇用創出や住む場所の確保などの環境づくりを進めるべきである。

○「まちの魅力発信の充実」を

市内の歴史文化などの観光資源や大学でのイベントなど、人を呼び込むような市の魅力について、いかにPRしていくかが重要であり、市内、市外、国外への情報発信の強化を図っていく必要がある。

必要な取り組みとしてあげられるもの

- 歴史・文化財・史跡の活用（史跡公園、枚方宿界隈の充実、観光マップづくり、京都方面へ水運をつなぐことなど）
- 総合文化施設の早期設立
- 国内外へ発信できるイベントや名物の創出・アピール、大菊人形の復活
- 国内の姉妹（友好）都市との交流の充実
- 枚方市駅周辺の活性化（市駅再整備ビジョンのスピード感のある推進）、宿泊施設の充実
- 地域の景観向上（景観条例などで行政が指導）
- 市内6大学と地域の交流・連携（大学施設の開放、大学生の力を地域の福祉・コミュニティに活かしていくことなど）
- 事業所助成と産業育成（学生の雇用など働きたい人が元気に働けるように）
- 広報の充実（見やすい広報紙、大学のイベントの周知、観光案内所の枚方市駅への設置など）
- 生涯学習市民センターの活性化（各地域が魅力・特色を多面的に打ち出すなど）

※その他の意見については、資料「各回のワークショップにおける意見・提案の詳細」のとおり。

健康で心豊かに暮らすために

めざすべきまちの姿

○「医療体制が充実したまち」に

年をとっても病気になっても不安がないよう、医療体制を充実すべきである。在宅医療によるターミナルケアの充実や、大学病院とかかりつけ医などの病院間の連携、いつでも診療が受けられる体制の充実などが必要である。

○「市民の健康づくりの推進」を

健康づくりを積極的に推進すべきである。健診の受診者を増やすこと、スポーツなどで気軽に体を動かせる公園や淀川堤防の環境を整備すること、家庭教育を充実し病院や薬を利用しないようにすることなどが必要である。また、健康施策への効果的な投資は医療費削減につながり、それにより生み出された財源を更に活用していく好循環をつくるべきである。

○「自立を支援し、人権意識の高いまち」に

個々人がその特性や能力に応じ、自立して暮らすためには、障害や人種など個々の特性を尊重し合うことが大切であり、そのためには、子どもの頃から障害者や高齢者、様々な人種の人との交流を深める場づくりが必要である。また、人権意識を高める研修等や、子どもの「人間力」を育てる教育が必要である。

○「高齢者が生きがいを感じられるまち」に

高齢者が生きがいを持って暮らしていくためには、高齢者の技能・経験を十分に生かせるよう、収入を得ることのできる就労の場や、ボランティアなどの活躍の場を提供すべきである。また、高齢者と若者・子どもとの世代間交流についても、いきいきと暮らすためには大切である。

必要な取り組みとしてあげられるもの

- 24時間在宅医療、ターミナルケアの充実（医師がチームを組み地域内を巡回することなど）
- 24時間診療が可能となるよう各病院相互の協力体制づくり、専門医の常勤化
- 治療中の手当の充実、回復後に仕事に復帰しやすい環境づくり
- 未病対策による医療に依存しない体制づくり（家庭教育や学校での保健授業など）
- 淀川堤防の環境整備（堤防の自転車道の整備、距離標識の設置など）
- ロコモティブシンドローム（運動器の衰えによる障害）の予防対策の推進
- 高齢者と若者の交流（多世代の人が楽しめるイベント、高齢者が大学へ出向きやすい環境等）
- 人の傷や苦しみを素直に手助けできるような「人間力」を育てる教育
- 子どもの頃から障害をもった人や高齢者と交流する場づくり
- 福祉の場で従事者（介護福祉士など）が働きやすい環境整備
- 人権意識を高める研修（SNS利用時の人権意識向上など）、ワークライフバランスの充実
- 各ライフステージに応じた雇用創出（高齢者の技能を生かした雇用や障害者雇用の創出）
- 生涯学習市民センターなどを活用した高齢者の生きがいづくり
- 広報活動の充実、ポータルサイトの設立

※その他の意見については、資料「各回のワークショップにおける意見・提案の詳細」のとおり。

子どもを育み、学び続けるために

めざすべきまちの姿

○「生きていく力を育む教育」を ～ 学校・家庭・地域の連携が大切 ～

子どもたちの「生きていく力」を育むべきであり、社会や自然を感じる体験学習や障害を持つ子どもも持たない子どもと共に学ぶことなどにより、コミュニケーション力を養うことが必要である。そのためには、学校・家庭・地域の連携が必要で、家庭での教育・親に対する教育の重要性や、高齢者や大学生など地域ぐるみで子育てに関わることが大切である。

○「安心して産み育てられるまち」に

安心して産み育てられる環境を整備するため、保育所の拡充により待機児童をなくすことや、男性が子育てしやすい環境づくり、若い夫婦が生活しやすい住環境の整備などが必要である。

○「世代に関わらず誰でも気軽に学べるまち」に

あらゆる世代の方が、身近なところで気軽に学習でき、生涯、生きがいを持って学び続けることのできる環境づくりが必要である。そのためには、生涯学習市民センターや学校図書館の有効活用、大学との連携、歴史文化民俗資料館などの設置のほか、学びの場の広報・PRなどを行うべきである。

○「誰もが楽しくスポーツができるまち」に

誰もが楽しくスポーツできる場をつくる必要がある。新たに参加する方が参入しやすい仕組みをつくることや、種目の重点化などにより、世界に通用する選手を輩出できるようなまちとなればと考える。

必要な取り組みとしてあげられるもの

- 勉強だけでなく社会を学べる教育の推進（コミュニケーション力の育成、農林水産業等の体験学習、異文化交流など）
- 地域に開かれた教育の充実（地域の高齢者・企業・大学生などの教育への参加）
- 家庭での教育、親を育てる教育（親へのサポートなど）
- 障害を持つ子どもも持たない子どもと共に学べる環境づくり
- 学校教育の充実（民間校長の登用、土曜授業による学力低下の防止）
- 待機児童ゼロに向けた官民（特に官）の保育所の増設
- 高齢者と子育て世代・子どもとの交流促進、大学生との連携（子育てサロンなど）
- 男性の子育て推進（育児休業の取得推進、育児のプチスクール開催など）
- 生涯学習市民センターの充実（様々なテーマでの学びの提供、新たに参加しやすい環境づくり）
- 学校図書館の活用など気軽に学べる場所の確保、広報などによる学びの場の情報発信
- 学んだ知識・技能を生かせる仕組みづくり（定年後も収入を得られるなどの環境等）
- 歴史文化民俗資料館などの設置・充実
- 気軽に参加できるスポーツの場づくり、スポーツ種目の重点化・特化

※その他の意見については、資料「各回のワークショップにおける意見・提案の詳細」のとおり。

各分野でみられた共通課題

「行政と地域の連携」

- あらゆる分野における取り組みにおいて、行政と地域の連携が欠かせない。
- 市は行政情報をわかりやすく発信し、市民・地域はまちづくりに対する意識を高め、互いに話し合う機会を充実することで、両輪となって進めていくことが必要。

「地域の人づきあい・コミュニケーションの充実」

- 防災、防犯、教育など様々な分野において、地域で協力し合える人づきあいの充実が必要。
- 高齢化が進み、地域コミュニティにおいても高齢者の割合が高くなる中、高齢者から子どもまで世代を超えた交流が重要で、高齢者の技能・経験を若い世代に伝達していくことが必要。

「市内大学との連携」

- 市の地域資源である市内大学と行政・地域が連携し、学生による教育や福祉、コミュニティなどの活動への参加を促進していくことが必要。それが学生の定住化にもつながる。

「情報発信力の強化」

- 行政からの情報は、市民がわかりやすく、よりタイムリーに発信することが必要。
- 市の特色や観光資源など人を呼び込むような市の魅力については、子どもの頃から伝えることや、市外へのPRを強化することが必要。

枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）の提案

今後、人口減少社会が進む中、枚方市が選ばれるまちとなるために、どのような特色を打ち出していくべきかについての提案

《提案の視点》

「枚方市は ●● なまち」と言われるようになったらいいな。（理想とする枚方市）

- 枚方市の特性（良いところなど）を踏まえ、何を発信していけばよいか。
- 分野別テーマ（①～⑤）での検討を踏まえ、今後、何を重点化し、市の特徴をつくっていけばよいか。

○福祉の充実したまち

今後、より高齢化が進んでいく中で、高齢者に対する福祉のほか、障害者など誰にでもやさしいまちであるべきで、枚方市が福祉のまちと言われるようになるべきである。

○子育て・教育が充実したまち

少子高齢化が進む中、子どもを安心して産み育てられ、教育に強いまちであるべきで、小中学生への自然教育や障害をもつ子どもへの教育を大切にしていくとともに、誰もが生涯、生きがいをもって学べるまちとして発信していくべきである。

○健やかに暮らせるまち

枚方市の特徴である「医療施設や医療系大学」を活用しながら、健康寿命を延ばす取り組みを進めるなど、健やかに暮らせるまちとして特徴をつくっていくべきである。

○歴史・文化芸術のまち

恵まれた市内の歴史遺産などを生かし、他市の人々が訪れる観光名所のほか、市の花“菊”をよりPRしていくこと、また、子どもたちに枚方市の歴史を伝えていくことなどにより、歴史・文化芸術のまちとして発信していくべきである。

○世代間交流や地域連携が活発なまち

枚方市の特徴である「学生のまち」を生かし、地域と大学の連携など高齢者から若い世代までの世代間交流が活発になされ、校区コミュニティなどの活動が活発なまちと言われるようになるべきである。

○住みたいまち・住みやすいまち

枚方市の特徴である「多様性があり、全体的にバランスが良いこと」を生かしながら、豊かな自然、安全安心、交通の利便性など様々な分野で総合的に取り組むとともに、市のまちづくりに対し市民からの提案が生かされる機会を充実していくことなどにより、「住みたい・住みやすいまち」を発信していくべきである。

【参考】枚方市の「良いところ」と「悪いところ」についての主な意見

良いところ	悪いところ
<ul style="list-style-type: none">●住環境が良く、住みやすい●治安の良いまち●日常の買い物が便利●大阪・京都の中間地で交通の便利が良い（特に京阪沿線）●自然が豊かな一方で、都市化も進んでいる●大きな災害が少ない●歴史・文化のあるまち●市内に6大学を有する若者のまち●病院など医療施設が良くなっている●福祉面が充実している●障害をもつ人も共に学べるまち●多様性がある。全体的にバランスが良い	<ul style="list-style-type: none">●交通渋滞が多い●歩道が狭いため歩行者、自転車が安全でない●地元企業の元気がない●交通面など西部方面（京阪沿線）と東部方面とに差がある●公園など住宅地域に緑・遊び場が少ない●枚方市駅周辺の再開発が不十分●文化・芸術の施設ができていない●市内の6大学が最大利用されていない●地域資源を活用しきれていない●行政が横につながらない●施設のバリアフリー化が不十分●市の明確なイメージがない。アピール力が弱い

各回のワークショップにおける意見・提案の詳細

第1回

H25.12.21(土)
9:30~11:30

テーマ

「枚方市の良いところ、悪いところ」

各班の意見で主に共通している点

○枚方市は「住環境が良く、住みやすい」

枚方市の良いところとして、住環境が良く、住みやすいとの意見が共通しており、交通、買い物、病院が多いなど安全で安心して暮らせるとの意見が多かった。

○枚方市は「自然が豊か」

枚方市の良いところとして、東部地域を中心に、自然環境が豊かであるとの意見が共通している。ただし、地域によっては緑や公園が少ないとの意見もあった。

○枚方市は「歴史・文化のあるまち」

枚方市の良いところとして、歴史や文化に恵まれているとの意見が共通しており、文化活動が活発であるとの意見があった。

○枚方市は「多様性があるが、特徴がない」

枚方市は、都市的要素と田舎的要素が併存し、「都会の田舎」という感じで、地域資源が豊富で多様性があることが良いとする一方で、市の特徴や明確なイメージがないといった意見が共通していた。

○枚方市は「道路などのインフラが不十分」

枚方市の悪いところとして、交通渋滞が多いことや歩道が狭いため歩行者、自転車が安全でないとの意見が共通していた。

また、市民が利用する施設のバリアフリー化や文化施設が不十分であるとの意見も多かった。



※左から、A班、B班、C班、D班のワークショップの発表内容

良いところ	悪いところ
<p>住みやすさ</p> <ul style="list-style-type: none"> *住むには良い *なぜか枚方で生まれ育った市民が多い (住みやすいのか?) *大きな災害が少ない *人が落ち着いている *まちの雰囲気落ち着いている *治安が良い (比較的) *日常の買い物しやすい 	<p>施設が未整備</p> <ul style="list-style-type: none"> *庁舎内がごみごみしている *施設が古すぎる(学校を含めて) *バリアフリーが不十分 *歴史・文化・芸術の総合施設がまだできていない <p>*表玄関である枚方市駅周辺の再開発が不十分である *都市としての基幹整備 (インフラ) が不十分</p> <p>*京阪沿線と JR 沿線の差(東部ならではのアピールを) *雇用を創出する基幹産業がない</p>
<p>文化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> *地域のイベントが多い *多様な文化活動が活発である 	
<p>大学</p> <ul style="list-style-type: none"> *市内に6大学を有する文化・学芸・医療都市 	<p>大学</p> <ul style="list-style-type: none"> *6大学の最大利用がされていない *大学生と小中高校生が交流する機会が少ない
<p>福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> *病院など医療施設が良くなっている *福祉面が充実している 	<p>福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> *ひとり暮らしの人が住みにくい
<p>自然環境</p> <ul style="list-style-type: none"> *自然が豊か *自然豊かな部分を有する *自然環境がそこそこ良く、住みやすい 	<p>自然環境</p> <ul style="list-style-type: none"> *森林や公園が少ない (子どもの遊び場)
<p>交通</p> <ul style="list-style-type: none"> *大阪、京都の中間にありベッドタウンとして交通の便利が良い *電車(京阪交野線)に自転車を載せることができればより良くなるのでは 	<p>交通</p> <ul style="list-style-type: none"> *時間帯により交通渋滞が激しい *道路が狭い (旧住宅地など自転車、歩行者が安全でない)
<p>(行政の取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> *府の中では特段に市民の意見を行政が聞いてくれる *広報がわかりやすい 	<p>(行政の取り組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> *総合計画の冊子が良すぎる *アピール力は弱い (観光、魅力) (来たいと思うか)
	<p>人の問題 (教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> *地域によっては閉鎖的 *学生のマナー *ときどき態度の悪い職員 (病院) がいる *事件は現場で起きているのに行政は横につながらない

発表の主な要点

- ・良いところで最も意見が多かったのは「住みやすさ」。枚方出身の人がそのまま枚方に住んでいる、治安がいい、買い物がしやすいなどの意見があった。
- ・良いところで市内に6大学があることがあげられたが、それが最大利用されていないとの意見があった。
- ・病院など医療施設が良くなっているといった福祉面の良さがあげられた一方で、ひとり暮らしの人が住みにくいとの意見があった。
- ・自然環境が良いことがあげられた一方で、地域で差はあるが公園などが少ないという意見があった。
- ・良いところとして、大阪・京都の中間にあり交通が便利との意見があった。
- ・悪いところで施設が未整備という意見が多く、学校などの施設が古い、文化施設がないなどの意見があった。
- ・悪いところとして、交通渋滞が激しい、道路が狭くて安全でないとの意見があった。
- ・悪いところで人の問題があげられ、時々態度の悪い職員がいる、行政が横につながらないなどの意見があった。この問題は教育の充実により変わっていくとの意見もあった。

B班

テーマ『枚方市の良いところ、悪いところ』

良いところ	悪いところ
教育環境 <ul style="list-style-type: none"> *地域と学校がともに連携・協力している *障害をもつ人もともに学び、ともに生きることができている *留学生が多い *若者のまちである（6大学） *6大学の都市であり、教育に力を入れている 	インフラ <ul style="list-style-type: none"> *交通の便が悪い *道路状況が悪い *歩道が狭く自転車とぶつかりやすい *市民が利用するところが、あまりバリアフリー化されていない *JRが不便 *高速がない *災害対策に逼迫感がない *学校外で勉強する場が少ない
交通 <ul style="list-style-type: none"> *交通の便利が良い（京阪のみ） *大阪と京都の間での利便性 	
住環境 <ul style="list-style-type: none"> *住環境が良い *生活環境が良い（交通、買物、病院） *病院が多い *比較的安心して住める *大阪に近い、自然豊かな40万都市 *公園など自然豊かで遊べる場所が多い *自然を残す良い環境 *淀川が存在をもっと活かしたら良いのでは 	住環境 <ul style="list-style-type: none"> *京都、大阪のちょうど中間地。もっと「地の利」を活かせば・・・ *地域差が大きい
市のイメージ <ul style="list-style-type: none"> *都会の田舎 *歴史的、文化的、(学園)都市のイメージがあって良い 	市のイメージ <ul style="list-style-type: none"> *都会の田舎 *強いブランドがない *代表的なものがない *これと言って枚方は特色がない *枚方とは・・・という特色・イメージが非常に薄い（反面、上品なまち・・・?） *名産品がわからない
市民参画 <ul style="list-style-type: none"> *市民参画、市民活動が盛ん 	市民参画 <ul style="list-style-type: none"> *若者のまちづくりへの参加意識が低い *市民活動が見えにくい *自由な反面まとまりが悪い
	企業 <ul style="list-style-type: none"> *企業が少ない *地元企業の元気がない。撤退したりしている

発表の主な要点

- ・良いところで教育環境があげられ、6つの大学があり若者のまちであることや障害をもつ人も共に学ぶことができるなどの意見があった。
- ・良いところで京阪本線を中心とした交通の利便性があげられた。
- ・良いところとして、住環境があげられ、大阪に近く自然が豊かである、病院が多く安心して住めるという意見があった。一方で、悪いところとして、地域差が大きいことや、大阪と京都のちょうど中間都市で歴史的なまちであることをもっと活用すればいいのではないかとの意見があった。
- ・市のイメージとして、「都会の田舎」という感じがあり、市に代表的なものや特色がないことが悪いところとしてあげられたが、これをうまく活用すれば、立派なまちづくりの材料になるのではないかとの意見もあった。
- ・良いところと悪いところの両方に、市民参画があげられ、NPOなどを中心に市民活動が盛んとの意見がある一方で、活動が見えにくいことや若者の参加意識が低いなどの意見があった。
- ・悪いところとして、インフラ整備があげられ、道路事情が悪い、あまりバリアフリー化がされていないなどの意見があった。また、地元企業に元気がないという意見も出た。

良いところ	悪いところ
住みやすい <ul style="list-style-type: none"> *住みやすさ。20年間住んでいて不便を感じたことがない *平均的、全体的にバランスがよい(住みやすい) *住み良いまち。百貨店はなくなったがスーパーが元気 *買物には便利。安価な日用品(日常生活には) *京阪電車、バスがすばらしい *治安の良いまち(京都、大阪の間で良い意味で田舎：平和) 	道路整備 <ul style="list-style-type: none"> *大きい道路が多いが交通状況などが悪い(渋滞) *道路が整備されていないところがある(暗いところ) *道路が狭い(京都、大阪のように直線でない) *自転車には安全な道でない
自然 <ul style="list-style-type: none"> *自然がある *程良い自然が残りつつ都市化もある程度進んでいる点 *山田池公園 *淀川河川敷がある *河川がある 	自然 <ul style="list-style-type: none"> *主に住宅地域の緑が少ない(公園やくつろぐ場) *自然が少ないのではないか
市民意識 <ul style="list-style-type: none"> *市民意識が高いところ *スポーツが盛んなイメージ 	市民意識 <ul style="list-style-type: none"> *行政に頼らずに個人個人で良くしようとする意識が薄い(人口の割に) *国際志向がないところ。外に向かない(特に東京) *競争心のないところ
多様性 <ul style="list-style-type: none"> *多様性のあるところ *豊かな地域資源 	市の特徴 <ul style="list-style-type: none"> *良いところがないところ *無難(個性がもっとあってよい) *“これ”という芯がないところ *府外からの知名度が低い。枚方=ひらかたパークと思われている点 *近隣市(高槻など)にあらゆる面でおされている感じがする *ベッドタウン化しているところ *頼りないまち。中央にも(言葉)が届かない
きれいなところ <ul style="list-style-type: none"> *いちよう通りなどのきれいな道がある *きれいなまち(ゴミ分別ができています：市内) 	
歴史 <ul style="list-style-type: none"> *歴史、文化、工業団地 *歴史のあるまち(百済：交野) 	資源の活用 <ul style="list-style-type: none"> *いいところを活かしきれいなもったいない都市
<ul style="list-style-type: none"> *悪いところがないところ 	マナー <ul style="list-style-type: none"> *枚方市駅の夜の使用状況(スケボー)

発表の主な要点

- ・良いところとして、最も意見が多かったのは、「住みやすいまち」。交通の面、買物の面、安全安心を含めて住みよいとの意見があった。
- ・良いところで自然があるところがあげられ、淀川周辺、山田池公園など自然豊かとの意見があった一方で、身近なところに緑が少ないとの意見が出た。
- ・ソフト面の良いところで、市民意識が高いところがあげられ、スポーツが盛んとの意見がでた一方で、悪いところとして、行政に頼らず個人個人良いところをのばす意識が少ない、国際的な視点が少ないという意見が出た。
- ・多様性があり何でも受け入れるところが良いとの意見があった一方で、悪いところで最も意見が多かったのは、市の特徴がないところで、これというイメージがない、知名度がないとの意見があった。
- ・ゴミの分別などきれいなまちであることや、歴史や文化を感じられるところも良いところとしてあげられた。
- ・悪いところで道路整備があげられ、交通渋滞や歩行者、自転車が危ない道が多いとの意見があった。
- ・悪いところとして、行政の取り組みや夜の枚方市駅付近におけるマナーが悪いなどの意見があった。

良いところ	悪いところ
<p>寛容、多種多様な人の多さ</p> <p>←市のイメージ→</p> <ul style="list-style-type: none"> *いろいろな人が多い *地元の人が比較的多い *大学が多い *大学や学校関係の施設が多く教育分野が充実している *6大学があって、関西外大の留学生が多い *若い人が多い *駅付近が賑わっている 	<p>市のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> *市の玄関的イメージがない *「枚方（ひらかた）」が難読 *大阪にも京都にも遠い *緑が少ない *夏が暑い *海がない
<p>自然・文化</p> <ul style="list-style-type: none"> *歴史、地勢、文化は恵まれている *わりと歴史がある *氷室地区などまだまだ自然が多く残っている *山が近い *自然と都会度のバランスが良い 	<p>コミュニティが築かれていない（地域格差）</p> <ul style="list-style-type: none"> *学校内行事にもっと地域が参加したい *校区の弊害（コミュニティづくりができていない）
<p>住環境</p> <ul style="list-style-type: none"> *住みやすいまち *障害があっても地域の学校に通える *行政サービスにより便利 *開業医、病院（大学病院）が多く医療の供給体制が充実している *病院がしっかりしている 	<p>都市計画（生活・文化面）</p> <ul style="list-style-type: none"> *枚方市駅周辺がごちゃごちゃしている *枚方市駅の玄関口の商業（巨大店舗）が撤退してさびれている感がある。雑居ビルの構成 *ホテルがない *文化施設が少ない *文化活動に適した施設が少ない *老人が出かける場所が少ない（ひらかたパークを1回くらい無料で） *医療で、在宅の医師や終末期までみてくれるところは少ない
<p>※上記3項目に関連するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> *芸術・文化活動が盛ん *イベントが多い *ボランティア活動をする環境が十分にある *図書館は便利で読み聞かせやイベントが多い 	<p>都市計画（交通アクセス）</p> <ul style="list-style-type: none"> *文化・スポーツ・公共施設へのアクセスが悪い *道（歩道）が狭い *駅付近の渋滞。道路の数が少ない

発表の主な要点

- ・良いところとして、枚方市は「寛容」であることがあげられた。多種多様な人を受け入れており、外国語大学などの大学も多く多民種で、地の人や若い人など年齢層も広いとの意見があった。一方で、悪いところでは、明確なイメージがないことがあげられ、これが枚方というイメージがほしいとの意見があった。
- ・良いところで自然・文化があげられ、東部を中心に自然がある一方で、枚方市駅周辺には文化・施設があり、自然もあるけど都会もあるところが良いとの意見があった。
- ・住環境が良いこともあげられ、住みやすいまちであり、医療の供給体制が充実しているなどの意見があった。
- ・多種多様な人が多く、自然・文化があり、住環境が良いことから、芸術文化活動が盛んで、学生中心のものなどの様々なイベントが多いことにつながっているとの意見があった。
- ・悪いところとして、コミュニティが築かれていないことがあげられた。市内に45小学校区のコミュニティがあるが、活発なところとそうでないところがあり、地域差が大きいとの意見があった。
- ・悪いところとして、都市計画があげられ、生活・文化面では枚方市駅周辺の商業の撤退や文化施設等の不足、交通アクセスでは交通渋滞や道が狭いなどの意見があった。

各班から出された主な意見

○「緑が豊かなまち」に
～ 都市環境とのバランスが大切 ～

豊かな緑など自然を大切にすべきとの意見が多く出され、自然に対し過度な保護をせず、生物多様性のあるまちを目指すべきとの意見がありました。その中で、自然と都市環境・安全面とのバランス、企業立地と住環境との調和を図りながら進めることが必要との意見が出されました。

○「環境教育」の充実を

正しい環境教育を行うことが重要との意見が共通していました。子どもだけでなく、大人や企業も含め環境意識の向上が必要で、担い手としては、行政のほか、地域や学生も参加し、一人ひとりが情報発信者となるべきとの意見がありました。また、公園や緑地でのイベントなどで世代間交流を図りながら、環境に対する理解を深めていくべきとの意見が出されました。

○ごみを減らし「美しい環境を保つまち」に

地域での美化活動等による道路・公園などの清掃の充実や街路樹の剪定のほか、ポイ捨てや歩きタバコの防止強化、商業施設へのレジ袋等の総量規制など、美しい環境を保つための仕組みが必要との意見が出されました。

○「行政と地域の連携」による取り組みを

環境保全の取り組みには、行政と地域の連携が欠かせないとの意見が共通していました。市は取り組み内容やその効果を市民にわかりやすくPRし、市民は省エネなど環境に負荷をかけない暮らしを意識するなど、互いが両輪となって進めていくことが重要との意見が出されました。



※上段左からA班、B班、下段左からC班、D班のワークショップの発表内容

A 班

テーマ『環境を守り育てるために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと	自分たちでできそうなこと
<p>緑がいっぱいあるまち</p>	<p>○植林・植樹</p> <p>○森林保全 *里山オーナー制度の導入</p>	<p>○間伐</p> <p>○緑化ファイナンス *市民がお金を出し合うトラスト運動のようなもの</p>
<p>生物多様性のあるまち</p> <p>*もっと昆虫を増やす *天野川、穂谷川を大切に する風土が育ち、ホタル がすめるような河川にな ればよい</p>	<p>○ビオトープの設置 *ボール遊びができない公園が多いので、いっそのこと 大きなビオトープ公園にする</p> <p>○産民学官の協力による自然共生の研究 *河川の開発などに自然工法管理を導入</p> <p>○生態系マップ・緑化マップ *時系列でまとめる *生態系の分布図を作る</p>	<p>○河川の清掃</p>
<p>美しい環境を保つまち</p> <p>*公園などの手入れが行 われている</p>	<p>○道路や公園などの清掃の頻度を増やす</p> <p>○街路樹の剪定 *住宅地の道路幅の確保（庭木の剪定なども）</p>	<p>○地域で美化運動・活 動 *校区の様々な組織が横断的 に行う</p>
<p>資源の循環を意識して暮らすまち</p> <p>*資源循環の実現に向け て意識の高い市民が多 い、環境を大切にすま ち</p>	<p>○水の循環等についての啓発 *水循環の行程表を作る（自分が出すごみや排水がどう なるか等の啓発）</p> <p>○資源循環の検討 *バイオマス発電の研究・検討 *太陽光・風力発電施設の設置場所がない *ごみの分別方法の精度を高める(特に生ごみ)</p> <p>○回収・分別拠点をつくる</p>	<p>○ごみを減らす</p> <p>○ごみの分別 *自然資源の循環</p> <p>○生活等が不便でも環 境を守る</p>
	<p>共通項目</p> <p>○環境教育 *産民学官の協力で *特に大人への環境教育 *環境活動に対する税制優遇など</p>	<p>○環境に関わるボラン ティアを増やす</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「緑がいっぱいあるまち」「生物多様性のあるまち」「美しい環境を保つまち」「資源の循環を意識して暮らすまち」があげられ、特に、生物多様性や資源循環については関心が高かった。
- 緑や生物多様性で必要なこととして、植林・植樹、森林保全、ビオトープの設置などがあげられたほか、「生態系マップ・緑化マップ」といった市の動植物の30年程度前からの移り変わりを示すようなものを作ってほしいとの意見があった。
- 美しいまちに向けては、道路や公園などの清掃の充実や街路樹の剪定が必要との意見が出された。
- 循環を意識することについては、「水」の循環等の啓発や、特にバイオマスに関して糞尿やたい肥などの活用が必要との意見があった。
- そのうち自分たちでできそうなこととして、間伐や緑化のトラスト運動、川の掃除、ごみの抑制、ボランティアの増加のほか、地域の美化運動では各組織が横断的に活動できればとの意見が出された。
- 話し合いの中で、全てに通じて「環境教育」が重要だとまとまった。特に、子どもたちへの教育がなされても、手本となるべき大人が理解していないところが課題であるとの意見でまとまった。

こうなったらいいな	そのために必要なこと	自分たちでできそうなこと
<p>過度な保護のない自然</p> <p>*淀川の護岸工事、景観の良いところに柵を作るなど、過度に整備されていないか</p> <p>市民の集まる場の増加</p> <p>*公園など、市民が集まりともに楽しめる場の増加</p> <p>公園や緑地を核とした世代間交流</p> <p>*公園や緑地を核に地域の多様な人が交流できる空間づくり *遺跡、公園、里山などを市民の憩いの場、散歩やリフレッシュの場として活用</p> <p>環境教育</p> <p>*次世代において自然環境保全に取り組める枚方市</p>	<p>共通項目</p> <p>○環境ボランティアの養成 *公園や街路樹などのごみの管理を誰が担うか。自治会への参加率が低く、高齢者に負担がかかっている。若者の参加が必要 *ボランティアを募るなども必要</p> <p>○住民参加（子どもから大人まで） *住民自治の捉え方に違いがあり、地域差がある *住民の意向について意見交換する場、子どもたちの声を含め住民の意見を聞く場が必要</p> <p>○公園利用の規制緩和 *住民の自由な利用</p> <p>○枚方市主催のイベント（環境まつりなど）の実施 *「環境まつり」など、環境の理解を深めるイベントの開催 *自発的な参加を促すため、地域ごとのリーダー的な存在が声をあげる *駅伝大会、もちつき、ゲームなどの実施</p> <p>○地域が学校へ出向き、連携した環境教育 ○正しい環境教育（学校から社会へ） *環境教育を授業で取り上げる（道徳など総合的な時間） *地域のこと、また、そこで何をすればいいのか知ってもらう。</p> <p>○縦割り行政の枠を外すこと</p> <p>○環境基本条例・計画の改正等に市民の意見を反映</p>	<p>○環境活動をしている団体が中心になって盛り上げる</p> <p>○環境とは何かということを理解する場に参画する</p> <p>○地域や学生の参加 *小中学生への教育</p> <p>○忍耐強く行政へ働きかける。そのために市民も力（知識）をつける</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「過度な保護のない自然」「市民の集まる場の増加」「公園や緑地を核とした世代間交流」「環境教育」があげられ、特に、世代間交流や環境教育について関心が高かった。
- そのために必要なこととしては、護岸工事など過度な保護をせず市民意見を踏まえ進めること、地域の集まりに公園などを利用しやすくすること、世代間交流を進めるため、祭りや公園の管理などで子どもから大人までが参加し意見交換する場が必要との意見があった。
- 市民の環境意識を高めるためには、まずは市がリードして環境をテーマにしたイベントを実施し、そこに環境活動をしている団体が連携することで、市民の自発的な参加を促す流れが必要との意見が出された。
- 環境教育については、次世代につなげるため正しい教育を授業で取り上げることが大事で、学生や地域の参画により進めていくことが必要との意見があった。
- 話し合いの中で、環境施策を含めた良いまちづくりを進めるためには、忍耐強く行政へ働きかけていくことが大事で、そのためには市民は勉強していくことが必要だとまとまった。また、このワークショップでの意見を環境基本条例・計画に反映してほしいとの意見でまとまった。

C 班

テーマ『環境を守り育てるために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと	自分たちでできそうなこと
<p>環境に負荷をかけない暮らしを意識する市民が増える</p> <p>スマートシティの実現</p> <p>*地球温暖化のブレーキになる</p>	<p>○エネルギー消費の低減（省エネルギー化） *省エネルギー化と自然エネルギーの活用 *1人1人のエネルギー消費の低減</p> <p>○子どもの時から環境を学べる場づくり *そのための要員づくりも必要 *学校の先生だけでなく地域も一緒に</p>	<p>【第一歩として】</p> <p>○みんなで省エネに取り組む特別日の設定 *電気・ガス・エアコンの使用減、エレベーターの使用や車移動を控える等（病院などは別）</p> <p>○環境意識を持つ市民増加に向けた情報発信</p> <p>○自家発電を増やす</p>
<p>市民全体が環境保全活動に参加するまち</p> <p>*すべての主体が環境保全活動に参加するまち（人材育成）</p>		<p>○学生が引率して子どもを自然のある場所に連れて行く</p> <p>○市の講師登録制度に参加する</p> <p>○個人的にも環境について子どもたちに教える</p> <p>○学校のまわりのクリーンアップを進める（PTA）</p>
<p>ポイ捨てや歩きタバコのないまち</p> <p>*美化意識の向上</p>	<p>○タバコに対する罰金制度づくり *他の地域の事例のようにタバコに対する罰則を設ける。ただし、マナー違反は一部の喫煙者であること、また、どれだけ実行するかなど難しい点もある *喫煙場所が少ないので、スペースをつくる</p>	<p>○携帯灰皿を持つ</p>
<p>企業立地と住環境が調和したまち</p> <p>*企業立地と住環境が調和した、住みやすいまち。それが枚方市の特徴にもなる。</p>	<p>○企業への環境保全支援 *特に小規模企業に対して支援</p> <p>○環境のカウンセラー制度の創出 *行政やNPOなど様々な主体による支援</p>	<p>○公共の制度（カウンセラー制度など）に市民が積極的に参加</p>
	<p>共通項目</p> <p>○情報発信力の強化 *いろいろな手法や媒体での発信</p> <p>○啓発活動の取り組み</p>	<p>○自分たちが情報発信者となる</p> <p>○海外の事例等を勉強</p> <p>○情報を取りに行く</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「環境に負荷をかけない市民が増える」「市民全体が環境保全活動に参加するまち」「ポイ捨てや歩きタバコのないまち」「企業の立地と住環境が調和したまち」があげられた。
- 環境に負荷をかけない市民を増やすためには、1人1人がエネルギー消費を低減することが重要で、第一歩として、月に1度など省エネの「特別な日」を決めることのほか、自家発電の増加などの意見があった。
- 市民の環境保全活動への参加に向けては、小さい頃から環境を学べる場が必要であり、学校だけでなく、学生が子どもを自然の場に連れて行くことや市の講師登録制度など、地域が一緒に進めるべきとの意見があった。
- ポイ捨てなどの防止に向けては、罰金制度づくりやタバコを吸う場所をつくるが必要との意見があり、自分たちでできそうなこととしては、携帯灰皿を持つなどの取り組みがあげられた。
- 企業と住環境の調和に必要なこととしては、企業の環境保全の取り組みに対する支援やカウンセラー制度の創出などがあげられ、調和するまちが形成されれば、それが枚方市の特徴になるのではないかとの意見があった。
- 全ての取り組みに共通して、口コミ、ビラ、ネットなどによる「情報発信力の強化」が重要で、自分たちも情報発信者となりながら啓発活動に取り組んでいくことが重要だとまとまった。

D 班

テーマ『環境を守り育てるために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと	自分たちでできそうなこと
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> バランスのよい緑 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 自然環境保護 </div> <p>*緑豊かなまちになればよい *守ることと育てることが大切 *自然と人工物のバランスの良いまち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○緑化指数の目標設定 ○緑化推進 <ul style="list-style-type: none"> *枚方市のシンボルである市の木「柳」や市の花「桜」を増やす（育てる） *シルバー人材の活用など ○里山保全 ○公有地の有効活用 <ul style="list-style-type: none"> *緑などを身近に感じられる場に活用 *土のある場所を残す ○公共井戸の開削 ○河川の清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ○緑のカーテン（ゴーヤなど）の設置 ○市のコンテストなどへ参加 ○緑の団体へ寄付 ○緑のポイントをつくり、環境保全へ寄与
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ごみ問題の解決 </div> <p>*ごみ減量策が強化されたまち *ごみ問題の教育を推進し、まちをきれいにするための住民意識の高揚を図る</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ごみを減らす対策 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ごみを減らすための教育 ○分別して処理されたごみの行方を認知 ○大型商業施設へのビニール袋消費枠設定（課税） ○レジ袋の総量規制 ○自動販売機の設置制限義務強化（条例など） ○市民の意識改革 <ul style="list-style-type: none"> *住民1人1人の意識向上が必要 *美化意識の向上による景観の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ○廃棄物を少なくする ○家庭教育をする ○地域で清掃 ○マイバックを持つ ○自動販売機を利用しない ○マイポットの持参
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 行政と市民の連携 </div> <p>*市民にわかりやすい広報活動 *市民の生活行動と市の政策が密に関係すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「政策」－「市民行動」－「効果」の連関をわかりやすくする広報 ○市の窓口（連絡先）の明確化 <ul style="list-style-type: none"> *公園利用に関してなど ○枚方市の特徴ある施策への市民の理解支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○行政と市民の両輪で引っ張っていく（協働）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> エネルギー問題 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○コンビニの営業時間総量規制 	

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「バランスのよい緑（自然環境保護）」「ごみ問題の解決」「行政と市民の連携」があげられた。
- バランスのよい緑については、緑豊かなまちになれば良いとの意見とともに、自然と人工物、また、自然と安全のバランスがとれたまちづくりが大切との意見があった。必要なこととしては、緑化指数の目標設定や市のシンボルの木「柳」、花「桜」などを増やすこと、里山の保全などがあげられた。自分たちとしては、緑のカーテンなど様々な取り組みへの参加、取り組みが難しい場合は、環境団体へ寄付するなどの意見が出された。
- ごみ問題の解決に向けては、地域でごみの総量を減らすため、環境教育の充実のほか、レジ袋の総量規制や、自動販売機の設置制限の強化などの提案が出された。市民の意識改革も必要であり、家庭での教育や、マイバック・マイポットの持参などの意見があった。
- 行政と市民の連携については、市の政策が市民の生活・行動につながり、効果となって表れていく流れをわかりやすく市民に伝えることで理解を深めていくことが必要で、互いが両輪となって進めていくことが重要だとまとまった。
- そのほか、エネルギー問題として、コンビニの営業時間の総量規制が必要などの意見が出された。

各班から出された主な意見

○「災害に強いまち」に

災害に強くなるべきとの意見が多く、医薬品などの備蓄対策や迅速な緊急情報の発信のほか、地域では避難訓練を繰り返し行うとともに、日頃から人づきあいを深めることが重要との意見がありました。

○「安全に歩けるまち」に

安全に歩き、自転車に乗れるよう、歩道・自転車道の整備等による歩車分離を強化すべきとの意見が多くありました。整備には行政が現場を十分に知り、優先順位をつけながら行うべきとの意見がありました。

○「犯罪の少ないまち」に

防犯の強化に関する意見が共通して出され、夜間の安全やネット犯罪などの防止に向けて、街灯・防犯灯の充実、行政からの情報発信のほか、住民間のつきあいが大切との意見が出されました。

○「コミュニケーション」の充実を ～ 人づきあい・コミュニティの強化が大切 ～

全班に共通して、安全・安心に暮らすためには、「コミュニケーション」による人づきあいが欠かせず、互いに協力し合えるコミュニティづくりが重要との意見が出されました。

また、コミュニケーションについては市民間のほか、行政間、市民と行政との間の意思疎通が必要で、それが、自助、共助、公助の切れ目ないネットワークにつながるとの意見がありました。

○「わかりやすくタイムリーな情報発信」を

行政からの災害・犯罪などに関する情報については、市民がわかりやすく、よりタイムリーに発信することが必要との意見が出されました。



※上段左からA班、B班、下段左からC班、D班のワークショップの発表内容

A 班

テーマ『安全・安心に暮らすために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと
<div data-bbox="167 286 432 360" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">歩道の整備されたまち</div> <div data-bbox="167 387 432 439" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">道路の整備</div>	<p>○道路整備等、関係機関と調整し予算を重点的につける</p> <ul style="list-style-type: none"> *安心して歩ける、人に優しい道路の整備 *何十年と危険な道路や整備状況の悪い道路の整備 *国道1号や府道京都守口線の整備 *予算の重点化には数値による評価が大切
<div data-bbox="167 495 432 568" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">犯罪の少ないまち</div> <div data-bbox="167 595 432 669" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">街灯と門灯による防犯のまち</div> <div data-bbox="167 920 432 994" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">協働の活動が実感できるまち</div>	<p>○地区のコミュニティづくりの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> *地域活動に地域差があり、自治会の加入状況や私学通学者の増加による校区意識の希薄化などが、参加者減少の要因と考えられる <p>○防犯灯と各家庭の門灯による明るいまちを防犯につなげる</p> <ul style="list-style-type: none"> *防犯灯のLED化 *一方で、家の間際にある防犯灯が明るすぎるという声も <p>○顔の見えるコミュニケーション</p> <p style="text-align: center;">行政と行政 市民と市民 のコミュニケーションが大切 市民と行政</p> <ul style="list-style-type: none"> *行政間の意思疎通の強化 *何ができないか、なぜできないかをしっかりと伝える（理由がわかれば納得できる） <p>○「行政と市民が一体となってまちを守っている」ことが実感できる取り組み</p>
<div data-bbox="167 1055 432 1106" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自助・共助のまち</div> <p data-bbox="167 1111 432 1218">*1人1人が自分のことに責任を持てるようになる（行政や他人のせいにしていない）</p>	<p>○まちのステーション（小さな防災拠点の設置）</p> <ul style="list-style-type: none"> *交番・郵便局など（誰かがいる場所）に資機材（AEDやスコップなど）を設置
<div data-bbox="167 1256 432 1330" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">優先順位が明確なまちづくり</div>	<p>○生活環境を数値化した評価システム</p> <ul style="list-style-type: none"> *歩道の整備率や犯罪件数などの数値を元に評価し、PDCAサイクル化を実施 *行政が現場を知るマーケティング力の強化 *行政はビジネス的に考えることが必要（「どうすれば売れるか」というハングリーさ）
<div data-bbox="280 1429 432 1473" style="border: 1px solid black; padding: 2px; background-color: #333; color: white;">共通項目</div>	<p>○行政がもっと現場を知った上で対応</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「歩道・道路の整備されたまち」「犯罪の少ないまち・街灯と門灯による防犯のまち・協働の活動が実感できるまち」「自助・共助のまち」「優先順位が明確なまちづくり」があげられた。
- 歩道・道路の整備に向けては、行政機関同士など関係機関と調整した上で整備のための予算を重点的につける必要があり、また、そのためには行政がより現場を把握することが重要との意見があった。
- 犯罪が少ないまちに向けては、街灯と門灯で防犯を充実させることや、地区のコミュニティづくりの強化、顔の見えるコミュニケーション（市民間、行政間、市民と行政）により、互いに納得できる意思疎通を行い、協働の活動が実感できるまちとなることが必要との意見が出された。
- 自助・共助のまちに向けては、市民個々が責任を持つことが大切との意見があった。交番や郵便局など誰かがいる場所を「まちのステーション」（AEDやスコップを置く防災拠点）として活用すべきとの提案も出された。
- 安全安心の取り組みについては、生活環境を数値化した評価システムにより、優先順位を明確にすることが必要で、全ての取り組みに共通して、行政が現場を知った上で対応していく必要があるとまとまった。

B 班

テーマ『安全・安心に暮らすために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと	
	行政 ← (担い手) → 市民・地域	
災害時の対策・備えの強化 *災害時、逃げ遅れのないまち	○医薬品の巨大備蓄 *医薬品を指定して市が管理する *個、地域、市、国の役割分担	
事故ゼロ *事故、災害、事件がゼロになるまち	○情報のデジタル化 *消防無線のデジタル化を早期に実施	○個々のゆとりある生活 *鍵の閉め忘れがない *お金があれば悪いことをしない
救急・医療体制の充実 *救急のたらい回し根絶	○病院の受け入れ体制の充実 *三次病院を備えている市の行政指導	
交通環境の整備 *安全に歩けるまち *自転車に安全に乗れるまち	○ご近所、自分の生活に関心をもつ *今までは黙っていても安全安心だったが、安全安心は求めていくもの *何かしてくれるではなく、自分が人に貢献する（自治会・子ども会） *若い人に意見を出してもらって交流する仕掛け（若い人たちの得意分野で）	
防犯・防災のコミュニケーション	○個人レベルで通じ合えるサイトづくり *自治会との関与がなくても生活ができる ○安全な水の確保 *古い水道管の更新	
食の安全 *学校給食に地元の新鮮な野菜を供給 *良き住環境を創出する「農業」を守り振興させるまち	○地産地消、「農」の振興 *「枚方市農業公社」の設立検討 ○子どもへの食育の充実 *農業に関する一貫した教育 *遊び感覚で農業体験（生産から食まで） *旬の美味しいものを食べることから	
共通項目	○人を中心とした制度にする ○安全安心の情報管理・発信 *市の発信する情報は安心なので、よりタイムリーに発信 ○インフラ整備 *お金がかかるので、ステップを踏んで優先順位をつけて進める *発想は民、財源は官で	○市民の意識改革 ○自助・共助・公助の切れ目ないネットワークづくり *コミュニケーションが大切 *行政による押し付けではなく、市民の声を十分に聞きながら

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「災害時の対策・備えの強化」「事故ゼロ」「救急・医療体制の充実」「交通環境の整備」「防犯・防災のコミュニケーション」「食の安全」の6つがあげられた。
- 災害時の備えについては、災害時に薬がなくならないよう、「医薬品の巨大備蓄」が必要との意見があった。
- 事故ゼロのためには、消防無線デジタル化の早期実施や、市民個々がゆとりのある生活を送ることが大切との意見が出された。
- 防犯・防災では個人レベルで通じ合えるサイトなど情報を受ける仕組みが必要との意見があった。また、市民として安全安心を求めていく必要があり、近所や自分の生活に関心を持つことが大切との意見があった。
- 食の安全を確保するためには、地産地消、農の振興が大切で、子どもの農業体験や旬のものを食べることなど食育の充実が必要との意見が出された。
- 総括として、行政は「人を中心とした制度」を実施し、「安全安心の情報管理・発信」、優先順位をつけた「インフラ整備」を中心に担い、市民・地域においては安全安心に暮らすための「意識改革」が必要であり、相互に「自助・共助・公助の切れ目ないネットワークをつくること」が重要とまとまった。

C 班

テーマ『安全・安心に暮らすために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと
交通安全なまち *交通事故を減らしたい *車と歩行者と自転車がぶつかる道が多い	○歩車分離（自転車の通行区分） *自転車と人との交錯対策 *自転車専用道路や自転車通行禁止エリアの設定。「No 自転車 Day」設定等 ○自転車の運転マナーの向上
犯罪のないまち	○住民間のつきあいをよくする *犯罪をなくすには、犯罪者を出さないことが必要 ○地域全体での治安の取り組み
コミュニティ協議会の活動の差がないまち	○コミュニティ協議会の構成員をいろんな人から募る ○世代交代が必要 *若い女性（主婦層）の参加が必要だが、若い人は働いているため時間がなく、コミュニティに参加しづらいのが課題。また、人の少ない校区はどうするか。若い人も参加できる仕組みが必要だが、例えば若い層に子育て支援の情報が届いてないのが課題
公園がきれいでつどいの場となるまち *公園などの公衆トイレをきれいに	○緑化が重要（予算・内容） *花と緑のまちの実現においても、緑化に予算を付けるなどの重点化が必要 ○公園清掃の回数増加
単身者も安心して暮らせるまち *特に夜間や休日	○地域や公共とつながりができる支援 ○地域ごとの防災マップを作って配布 *防災マップを作成し、地域とのつながりが希薄な単身者に配布
食の安全なまち	○検査体制の充実 *中核市移行に伴う保健所の設置を踏まえて
子どもが安全に暮らせるまち	○警察による夜間の子どもの見守り ○街灯の設置
防災意識が高いまち	○災害に応じた対策の実施 *地震と水害に応じた避難所の設置 ○市全体での防災フォーラムの実施 *枚方市主催で校区コミュニティ全体と協力した防災フォーラムの実施
共通項目 地域全体で協力し合える安全安心な環境	○安全・安心な環境には、いかにコミュニティをつくるかが重要

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「交通安全なまち」「犯罪のないまち」「コミュニティ協議会の活動の差がないまち」「公園がきれいでつどいの場となるまち」「単身者も安心して暮らせるまち」「食の安全なまち」「子どもが安全に暮らせるまち」「防災意識が高いまち」があげられた。
- 交通の安全に向けては、歩車分離（車と自転車と歩行者との交錯対策）が必要との意見が出され、自転車の専用道路や通行禁止エリアの設定などの提案があった。
- 犯罪をなくすためには、住民間のつきあいを大切に地域で治安の取り組みを行う必要があるとの意見が出された。地域のコミュニティ協議会の活動の差をなくすためにも、世代交代が重要であり、若い人が参加するための仕組みが必要との意見があった。
- 防災意識の高いまちに向けては、地震や水害など災害に応じた避難対策を行うことや、単身者も安心できるような地域や公共とのつながりを支援すべきとの意見が出された。
- 全ての取り組みに共通して言えることとして、「地域全体で協力し合って安全安心な環境をつくっていくこと」が重要だとまとまった。

D 班

テーマ『安全・安心に暮らすために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと
<p>災害に強い、非常事態に強いまち</p> <p>*行政と市民が協働で災害に強い枚方をつくる *ライフラインの確保 *災害時に淀川舟運活用</p>	<p>○緊急情報を伝わりやすく *市民に災害情報を早く知らせる（行政間の連絡） *行政からの情報発信をわかりやすく *観光マップが防災マップにつながるように *エフエムひらかたを広く活用（災害情報）</p> <p>○避難訓練などを繰り返し実施</p> <p>○「自助」「共助」「公助」意識の徹底 *地域の行事を増やす（自助・共助・公助が進む）</p> <p>○人づきあいの強化・コミュニティづくり</p>
<p>夜間に安全に歩けるまち</p>	<p>○街灯の増設、防犯灯のLED化 *地球温暖化防止のために防犯灯をLED化 *自治会で防犯灯の整備、維持管理</p>
<p>ネット犯罪、詐欺などにあいにくいまち</p>	<p>○行政からの情報をわかりやすく</p> <p>○人づきあいの強化、コミュニティづくり</p> <p>○さまざまな相談がしやすい窓口、システムづくり *相談窓口をはっきりさせる *自治会役員が相談の一次窓口</p>
<p>安全に歩ける、自転車に乗れるまち</p> <p>*日本一歩きやすいまち</p>	<p>○人間優先の道路づくり</p> <p>○道路の環境整備 *歩道の整備、バリアフリー化、歩道と車道の境界に柵などを設置 *ルールを守れる環境づくり、歩いていて楽しい道づくり *枚方八景など歩いて回れるように観光マップづくり</p> <p>○自転車道を都市計画へ位置づけ *自転車で安全に通行できるマップづくり</p> <p>○交通ルール講習会を繰り返し実施 *自転車のルールの徹底、講習会の開催、子ども・大人・高齢者が同時に学ぶ *不法駐車をなくす</p>
<p>共通項目</p>	<p>○防災、交通ルール、繰り返しの訓練（忘れないために） *避難訓練や交通講習会などを繰り返し開催</p> <p>○市民にわかりやすい広報 *行政の計画立案は市民にとってわかりにくい *市の広報は文字が多くて見にくいいため、文字量の削減、イラスト・写真の活用、カラー化など、見てもらうための工夫が必要（有料でも見やすい広報紙） *歩行者が目にするような掲示板や電光掲示板の設置</p> <p>○行政、市民、企業の協働が大切 *とりあえず行政（市）がリードを</p> <p>○人づきあいの強化、コミュニティづくり *地域のコミュニティ力を高める *自治会活動を活発に *見通しのよいまち（ご近所の顔が見える仕組みづくり）</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「災害に強い、非常事態に強いまち」「夜間に安全に歩けるまち」「ネット犯罪、詐欺などにあいにくいまち」「安全に歩ける、自転車に乗れるまち」の4つがあげられた。
- 災害に強く、非常事態に強いまちにするためには、緊急情報がすばやく伝わるようにすることや、避難訓練を繰り返し行うこと、人づきあいの強化などが必要との意見があった。
- 夜間に安全に歩けるまちに向けては、街灯や環境に配慮したLED防犯灯をつけるべきとの意見があった。
- ネット犯罪や詐欺などへの対策については、市民にわかりやすく情報提供することや、人づきあいの強化のほか、様々な相談ができる窓口をつくることなどが必要との意見が出された。
- 安全に歩ける、自転車に乗れるまちにするためには、歩道や自転車道の整備など人間優先の道路づくりを行うことや、交通ルール講習会を繰り返し行うべきなどの意見があった。
- 全ての取り組みに共通して、「防災や交通ルールの繰り返しの訓練」「市民へのわかりやすい広報」「行政、市民、企業の協働」「人づきあい、コミュニティの強化」が重要との意見でまとまった。

各班から出された主な意見

○「歴史文化芸術を感じられるまち」に

市の活気や魅力を生み出すためには、市に残る歴史文化などの地域資源を活用すべきとの意見が多く出され、史跡や枚方宿、菊人形、水運など様々な観光資源を充実し周知することで、集客につなげ、観光が盛んなまちにしていくべきとの意見がありました。また、小さい頃から芸術・音楽にふれられる環境づくりが大切で、文化芸術ホールの整備なども必要との意見が出されました。

○「枚方市駅周辺の活性化」を

全班に共通して、市の玄関口・顔となる枚方市駅周辺の活性化が重要との意見がありました。高層ビル化のほか、商業や文化、行政など機能別の集積、景観に配慮したまちなみなど、人が集まる市街地の整備に向けて将来ビジョンをもって進めていくべきとの意見が出されました。

○「市内大学との連携」を
～ 世代間交流で学生と地域とのつながりを～

全班に共通して、市の地域資源である市内6大学との連携を進めるべきとの意見が出され、学生と地域が交流することで、学生の力を福祉やコミュニティなどの活動に活用していくことが必要との意見がありました。また、大学と行政、大学同士の連携も必要で、学生が引き続き枚方市に住んでもらえるよう、企業誘致による雇用創出や住む場所の確保などの環境づくりを進めるべきとの意見が出されました。

○「まちの魅力発信の充実」を

市内の歴史文化などの観光資源や大学でのイベントなど、人を呼び込むような市の魅力について、いかにPRしていくかが重要との意見が共通して出され、市内、市外、国外への情報発信の強化を図っていく必要があるとの意見が出されました。



※上段左からA班、B班、下段左からC班、D班のワークショップの発表内容

A 班

テーマ『活気・魅力ある暮らしのために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと
<p>文化・芸術・スポーツが活発になる環境</p>	<p>○市街地に集まりやすい場づくり *市が市街地に集まりやすい場を設けてほしい *今ある施設をうまく活用</p> <p>○文化的なものを中心で行う人や場づくり</p> <p>○限られた予算で上手に行政と市民が協働</p>
<p>国内外へ発信できるイベント・名物の創出</p> <p>*枚方の特徴を活かすような催し、学習 *国内外から人が訪れたり集う名物やイベントの創出</p>	<p>○各イベントの充実・見直し・アピール *イベントの実施主体が分かれているので、まとめる必要がある</p> <p>○小さな宝をほりおこす *まちの中にたくさんある小さな宝をほりおこし大切にすの努力（例えば百済寺跡、人形劇、天体望遠鏡、いろいろな人など）</p> <p>○菊人形を世界遺産に</p> <p>○大学との連携のあっせん *市内の大学との連携をとれるように、市にあっせんしてほしい</p> <p>○世界的アーティストの滞在できるゲストハウスづくり *世界的アーティストが滞在して制作活動ができるハウスの提供（“くらわんかハウス”）</p>
<p>子どもたちが夢をもてる環境</p>	<p>○職場体験の充実 *単なる体験に終わらせず、地域で働いている大人と、子どもの交流を大切に *安定した職を夢とするのではなく、匠との出会いなどによる夢へのきっかけ</p>
<p>人が安心して生きていける環境</p> <p>*活性化の裏返しで（活性化を支える）安全が大切</p>	<p>○安全な環境の創出 *みんなが気持ちよく過ごせるよう、それぞれに意識してもらえる働きかけ</p>
<p>枚方市駅周辺の活性化</p>	<p>○再開発の成功 *枚方市駅前の近鉄百貨店跡地の再開発、中心地が活性化するようビジョンをもって進めてほしい *枚方市駅周辺は多面的な開発が必要 *枚方市駅前の陸橋が暗いイメージ *メセナなど今ある施設の活用 *枚方市駅周辺全体の商業配置を考えたテナントミックスが必要 *行政でできる範囲はきちんとする</p>
<p>各地域が多面的に魅力を出す</p> <p>*各地域の魅力・特色を生き生き打ち出し、多面的な魅力あるまちに</p>	<p>*里山や大学など多面的に魅力を打ち出す</p> <p>○生涯学習市民センター（公民館）の活性化</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「文化・芸術・スポーツが活発になる環境」「国内外へ発信できるイベント・名物の創出」「子どもたちが夢をもてる環境」「人が安心して生きていける環境」「枚方市駅周辺の活性化」「各地域が多面的に魅力を出す」があげられた。
- 文化・芸術・スポーツが活発になる環境に向けては、市街地に集まりやすい場づくりが大切で、今ある施設の活用や市民と行政が上手に協働しながら活性化していくべきとの意見があった。
- 国内外へ発信できるイベント創りについては、イベントのアピール、百済寺跡などまちなかの宝のほりおこし、菊人形の世界遺産登録などの意見があった。そのアピールにおいても大学との連携が必要で、そのつなぎ役を市にしてほしいとの意見が出された。
- 子どもたちが夢をもてる環境に向けては、職場体験などの充実が必要との意見があった。
- 枚方市駅周辺の活性化においては、再開発の成功が鍵で、ビジョンをもって進めてほしいとの意見があった。
- 地域ごとの魅力化については、生涯学習市民センターなどを活用し、各地域の魅力・特色を打ち出し、多面的に魅力あるまちを目指すべきとの意見が出された。

B 班

テーマ『活気・魅力ある暮らしのために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと
<p>いきいきと働けるまち</p> <p>*働きたい人が元気に働ける *市民で新しい産物を育てる *企業誘致・建設、コミュニティビジネスを育てる *ベッドタウンから働けるまちへ</p>	<p>○事業所助成と産業育成 *産学民公の共働、開発援助</p> <p>○学生の雇用</p> <p>○津田サイエンスヒルズのさらなる活用</p> <p>○枚方独自のものをつくる *世界一の民生用携帯翻訳機があればいい（実用）</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; margin: 20px auto;"> <p>変える</p> </div>
<p>歴史文化芸術を活用したまち</p> <p>*あらゆる観光資源を活用した集客交流の広がるまち *若者が活発に活動しているまち *人が主役の「ゆとり」と「賑わい」と「おしゃれ感」のある中心市街地（枚方市駅周辺） *地域通貨でボランティアの有効活用ができる</p>	<p>○「枚方市駅周辺再整備ビジョン」のスピード感を持った強力な推進</p> <p>○総合文化施設の早期設立</p> <p>○民間活力の活用とその場の確立 *つながりづくりは行政 *市民の考えを行政が吸い上げて、市民が行政を後押しし、スピーディに行政が受け入れる *主導権を市民に</p> <p>○行政に代わり民間による施設運用 *施設は行政が用意、運営は市民 *文化センターは中途半端。民間との連携による運営 *ストリートミュージシャンのつながり（行政がコンサートを開催する）</p> <p>○広報の充実 *定期観光マイクロバス *観光マップ、掲載スポットの整備 *観光案内所を枚方市駅中央コンコースへ *地域の特性を活かす</p> <p>○地域通貨の活用 *発行の簡素化と利用店舗の一般化</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; margin: 20px auto;"> <p>守る</p> </div>
<p>つながって活かせるまち</p> <p>*各大学の学生と枚方住民（親・高齢者・子ども）の世代間交流が盛んなまち *好きなことが思う存分できる</p>	<p>○6大学とつながる *6大学と市民が交流、連携していく *各大学の学生が地域に入り込んでいく *地域も大学という資源を活用していく *大学の門を広げる（出入りしやすい案内表示） *市のホームページを活用（大学がローテーションで作成）</p> <p>○活動のつながりづくり *活動がつながる、広がる土台がないので、広げるためのしかけが必要</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 100px; height: 100px; margin: 20px auto;"> <p>創る</p> </div>
<p>*音楽があふれるまち *エフエムひらかたの盛り上がり</p>	<p>○枚方出身の有名人に協力してもらおう *例えば、V6の岡田准一さん、森脇健児さんなど</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「いきいきと働けるまち」「歴史文化芸術を活用したまち」「つながって活かせるまち」があげられた。
- いきいきと働けるまちに向けては、産業の育成・雇用の創出を図り、働きたい人が元気に働けるようにすべきであり、枚方のベッドタウンの特性を活かしながら、働けるまちへ「変える」ことが必要との意見があった。
- 歴史文化芸術の活用は、市民が活気づき、外から人を呼び込む効果があり、市の玄関口となる枚方市駅の周辺や総合文化施設についてスピード感をもったビジョンの実現が必要との意見が出された。また、枚方市には名所旧跡があり観光資源を効果的にアピールし、観光資源を「守る」ことが大切との意見が出された。
- つながって活かせるまちに向けては、市内6大学といった資源を十分に活用し、大学と地域との交流、行政との連携によって活気を生み出して行くことが大切で、つながりを「創る」ことが必要との意見があった。
- 働けるまちへ変え、歴史文化を守り、つながりを創ることで市の魅力を引き出していくためには、市民が主導となり、行政が市民の意見を吸い上げて進めていくことが必要だとまとまった。

C 班

テーマ『活気・魅力ある暮らしのために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">旧国道 1 号と枚方市駅前との間のまちなみが整備されたまち</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○枚方市と大阪府とのタイアップによるまちなみ整備 <ul style="list-style-type: none"> *進めやすいところからスタート ○高層ビル化の推進
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">若いお母さんが子育てしやすいまち</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○世代間で時間を援助 <ul style="list-style-type: none"> *小さい子をもつお母さんが病院などで待ち時間を過ごさずとも優先的に診てもらえるような仕組みづくり *特急券（診察優先券）を発行するなど地域での助け合いにつながる取り組みの実施 *みんなが理解し合って、ゆずり合いを促すような取り組み
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">大学施設が開放されているまち</div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">*学校を卒業しても身近に学べる必要がある</p> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">*大学の新しい情報発信</p> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">*関西外大の ICC の教室などを一般開放</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大学の年間スケジュール（コンサート、公開講座、演劇など）の周知 <ul style="list-style-type: none"> *大学側の積極的な広報 *大学施設が借りやすくなるとよい *関西外大は比較的開放されている ○広報ひらかたの活用 <ul style="list-style-type: none"> *市内 6 大学などの情報が掲載されている「ミニ情報」の枠をもう少し大きく *分野別の広報ひらかたの作成（現在は情報量が多すぎて見づらい） *行政が大学の情報を収集し、広報することはできないか ○大学生のボランティア活動 <ul style="list-style-type: none"> *大学の単位取得を前提
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">国際芸術祭があるまち</div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">*オペレッタなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小さい頃から芸術に親しめる・参加できる機会・場所が必要 <ul style="list-style-type: none"> *例えば、だんじりまつりなど *最初は民間施設（大学など）から始めてもいいのでは ○国内の姉妹（友好）都市交流を深める <ul style="list-style-type: none"> *市外から人を呼び込むことができる祭りなどの開催（例えば、瀬戸内芸術祭など） *一番賑わっていた花火大会がなくなり、ひらかた大菊人形も閉幕
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">水運を活用できるまち</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○京都方面へも水運をつなぐ <ul style="list-style-type: none"> *カヌーなどの利用で京都方面へ行けるとよい

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「旧国道 1 号と枚方市駅前との間のまちなみが整備されたまち」「若いお母さんが子育てしやすいまち」「大学施設が開放されているまち・ずっと学び学習できるまち」「国際芸術祭があるまち・姉妹都市交流のあるまち」「水運を活用できるまち」があげられた。
- 特に議論になったのは、大学施設の開放についてで、大学での公開講座などの年間スケジュールの周知、広報紙の効果的な活用のほか、単位取得を前提とした大学生によるボランティア活動が必要であるとの意見があった。大学でコンサート、講座、演劇などが公開されることで、小さい頃から身近で芸術に親しめる場として大学が活用されるとともに、大学生のボランティア活動に波及すればよいとの意見が出された。
- 旧 1 号線と枚方市駅との間（市駅周辺）のまちなみ整備に向けては、大阪府とのタイアップによる整備、高層ビル化の推進が必要との意見があった。
- 子育てしやすいまちに向けては、小さい子をもつ母親が病院で優先的に診てもらえるよう世代間でゆずり合う時間の援助について意見があった。
- 水運の活用については、カヌーなどの利用により京都方面へも水運をつないでいければとの意見があった。

D 班

テーマ『活気・魅力ある暮らしのために』

こうなったらいいな	そのために必要なこと
音楽・芸術にふれられるまち	○もっと身近に音楽・芸術にふれられる環境づくり *文化、芸術、芸能、スポーツ界の第一人者の助言・協力を得て市民の文化活動につなげる
みんながまちの魅力をj知ることがjできるまち *データのオープン化により、個人が何でも見つけられるように	○市の情報のデータベースづくり *市民が枚方市の魅力を発見できるデータベースの構築 ○情報発信・広報強化でアピールする *枚方観光ボランティアガイドの会があり、語り部など活動中 → もっと活性化・アピール
観光がさかんなまち *五十六次復活(泊まりたくなるまち) *ひらかたパークだけではないことを市外に広める	○ひらかた大菊人形の復活(人材育成から) *ひらかた大菊人形の復活。菊人形の職人を助成する仕組みづくり ○歴史・文化財・史跡を活かした取り組み *史跡を活かした公園づくり、枚方宿界隈の充実 *観光コース・マップづくり ○宿泊施設の充実 *昔のひらかた温泉のような施設や、ビジネスホテルがあるとよい *友好都市との交流の際、来訪者が泊まりたくなるまち
魅力ある中心市街地 *枚方市駅・樟葉駅・長尾駅周辺の活性化(トライアングル構想) *枚方市駅の高層化による活性化 *北部と東部をLRTで結ぶ	○枚方市駅周辺の再々開発が必要 *魅力あるまちづくりが市街地を活性化させる *駅前の景観づくりが必要 *修学旅行生が訪れるようなまちに *商業・行政機能を集積させる *文化芸術施設を集積させる(電車で行けるところに) → 駅前に芸術ホールを *ビジネスホテルをつくる
景観に配慮した魅力あるまち	○地域の景観向上 *景観条例などで行政が指導 *地域ごとに区分して住居景観を改善
大学生の力を活用するまち *大学生のハワ活用(職・住定着) *NPO、ボランティアに活用	○大学生が枚方市に残れる、残りたいと思う環境づくり *各大学の働きかけについて、行政の力で推進する *企業誘致(卒業しても残れるように) *住む場所の確保(住んでもらえる環境づくり)
大学と連携し交流のあるまち *各大学と地域コミュニティとの交流を活発に *立ち寄りやすい地域の大学に *大学間の連携	○世代間交流、地域の福祉、コミュニティへの参加 *大学生の力を福祉づくり、コミュニティづくりに活かす *世代間交流事業の活性化 ○産・学・民協働のシステムづくり *地域が主体となった学内イベント *大学(先生)と行政の関係づくりの強化 *大学による政策立案コンテストの実施(イベントづくり)

少子高齢化の歯止め
 税収増加に有効

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「音楽・芸術にふれられるまち」「みんながまちの魅力をj知ることがjできるまち」「観光がさかんなまち」「魅力ある中心市街地」「景観に配慮した魅力あるまち」「大学生の力を活用するまち・大学と連携し交流のあるまち」があげられた。
- 音楽・芸術にふれられるまちに向けては、芸術ホールの建設などが必要との意見が出された。
- まちの魅力をj知ることがjできるまちに向けては、市民が魅力を発見できるデータベースを構築し、市のホームページをより見やすくするなど情報発信・広報の強化が必要との意見があった。
- 観光がさかんなまちとなるためには、菊人形の復活(担い手の育成)や、史跡公園づくり、枚方宿界隈の拡大、駅付近での宿泊施設などが必要との意見があった。
- 中心市街地については、枚方市駅・樟葉駅・長尾駅の活性化が必要で、特に枚方市駅周辺では高層化のほか、商業・文化芸術・行政などの各機能を集積させることや、景観づくりが必要との意見が出された。
- 大学生の力の活用については、地域主体の学内イベントなどによる産・学・民の協働や、学生の力を福祉・コミュニティに活かしていくとともに、将来、学生が枚方に残り、税収増加や少子高齢化への歯止めをかけるためにも、企業誘致や住む場所の確保など残りたい環境づくりが必要との意見が出された。

各班から出された主な意見

○「医療体制が充実したまち」に

年をとっても病気になっても不安がないよう、医療体制を充実すべきとの意見が多く出されました。在宅医療によるターミナルケアの充実や、大学病院とかかりつけ医などの病院間の連携、いつでも診療が受けられる体制の充実などが必要との意見が出されました。

○「市民の健康づくりの推進」を

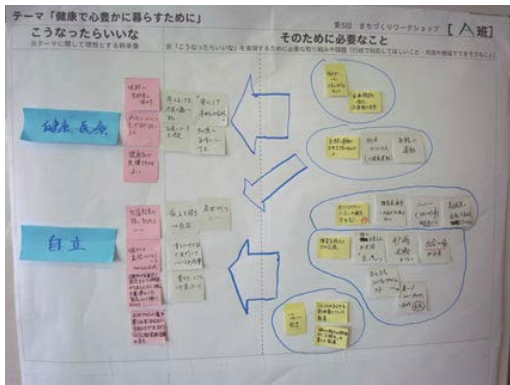
全班に共通して、健康づくりを積極的に推進すべきとの意見がありました。健診の受診者を増やすこと、スポーツなどで気軽に体を動かせる公園や淀川堤防の環境を整備すること、家庭教育を充実し病院や薬を利用しないようにすることなどが必要との意見が出されました。また、健康施策への効果的な投資は医療費削減につながり、それにより生み出された財源を更に活用していく好循環をつくるべきとの意見も出されました。

○「自立を支援し、人権意識の高いまち」に

個々人がその特性や能力に応じ、自立して暮らすためには、障害や人種など個々の特性を尊重し合うことが大切で、そのためには、子どもの頃から障害者や高齢者、様々な人種の人との交流を深める場づくりが必要との意見がありました。また、人権意識を高める研修等や、子どもの「人間力」を育てる教育が必要との意見も出されました。

○「高齢者が生きがいを感じられるまち」に

高齢者が生きがいを持って暮らしていくためには、高齢者の技能・経験を十分に生かせるよう、収入を得ることのできる就労の場や、ボランティアなどの活躍の場を提供すべきとの意見が出されました。また、高齢者と若者・子どもとの世代間交流についても、いきいきと暮らすためには大切との意見がありました。



※上段左からA班、B班、下段左からC班、D班のワークショップの発表内容

A 班

テーマ『健康で心豊かに暮らすために』

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
健康・医療 *安心して年がとれるまち、年をとっても不安のないまちになるとよい 病気にかかっても不安のないまち 健診の受診者を増やすこと 健康づくりが支援できればよい	*老後の生活やお金について不安 *病気になるまで不安と感しない *街かどデイハウスで、運動するような内容が用意されていない *寒いまちを歩いている	○“健康第一”として予算配分を考える *できるだけ医療費の負担を少なく ○医療機関の増加 ○治療中の手当の充実 *治療中などに働けない場合の手当なども充実してほしい *回復後に仕事に復帰しやすい環境づくり ○気軽に運動ができるようになればよい *街かどデイハウスで健康運動など軽運動ができればいい
自立 生涯、社会的自立ができるまち 権利には義務が付いていることを市民が認識 人間中心主義？自立という概念が本当に個を基準とした「自立」となる となりの人の傷や苦しみを素直に手助けできるような「公助・共助・互助」のまち	*市民が役割を認識し、言うだけでなく実行しなければならない *年金だけでは生活できない。収入での自立もある *シルバー人材センターの業務が減っているなど働く場所が少なくなっている *70～80歳くらいまで生きていく力が必要 *いろいろな人が話せる場づくり *若い人(特に20～40代)の交流がない *1日車いすになるとほとんど会話をしなくなってしまう *さまざまな人が交流できる井戸端会議がない	○各ライフステージに応じた雇用創出 *各世代で収入を得ること、それが自立につながる *障害者の雇用について行政に引っ張ってほしい *高齢者の技能・経験を生かす ○一人一人の子どもを見つめ育てていく教育 *小さいときからの教育が大切 ○個々の能力の評価より「人間力」を育てる教育 *各々の特性、能力、障害の有無等を考えた「自立」が必要 ○障害をもった人との交流 *施設などで話し相手になる人が大切「交流」 *新たな出会いの場が必要 *ひとまちつくるプロジェクト(若い人20～40代と60代以上の交流) ○公助・共助・互助のできる仕組みづくり *交流により楽しく生きていける仕掛けづくり

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「健康・医療(病気にかかっても不安のないまちなど)」「自立(生涯社会的自立ができる、人の傷や苦しみを手助けできる「公助・共助・互助」のまちなど)」があげられた。
- 健康・医療に関しては、病気にかかっても年をとっても不安のないまちに向けて、健診の受診者を増やすことや、健康第一の予算配分、医療機関の増加、治療中の手当の充実、街かどデイハウスに気軽な軽運動を組み込むことなどが必要との意見があった。
- 自立に関しては、生涯、収入を得ることも大切で、ライフステージに応じた雇用創出を図るため、高齢者の技能・経験を生かすことや、障害者の雇用については行政が引っ張ってほしいとの意見があった。また、自立の概念は個々の特性・能力を基準にしたものであるべきで、人の傷や苦しみを素直に手助けできる公助・共助・互助のまちを目指し、特に、障害者や高齢者の話し相手や新たな出会いの場が必要との意見が出された。
- 自立ある社会に向けては、一人一人の子どもを見つめ育てていく教育、また、個々の能力評価よりも「人間力」を育てていく教育が重要との意見が出された。最後に、健康になることが自立にもつながるという意見でまとまった。

B 班

テーマ『健康で心豊かに暮らすために』

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
<p>医療体制が充実したまち</p> <p>*専門の医療機関がほしい *必要な医療が枚方で受けられる *医療難民、介護難民をなくしたい</p>	<p>*自分で医療機関を調べないといけない *枚方には関西外大があり、いろいろな国の方が住んでいる(医療機関での外国語の活用) *高度医療機関の対応が冷たく、町医者との連携がない</p>	<p>○24 時間在宅医療、ターミナルケアの充実 *特に自宅で終末期を過ごせるように *関西医大などの病院のすみわけ、機能分担、仕掛けが必要 *医師がチームを組み、町内をまわる *信頼できるかかりつけ医と大学病院との連携</p> <p>○専門医の常勤（相談窓口） *市民病院の先生のプロパー化</p> <p>○在宅介護の支援</p> <p>○地域における支援体制・ルールづくり</p>
<p>健康</p> <p>*健康寿命を伸ばすための市民の健康づくりを積極的に推進 *健康に集える場。関西医大などがあるので、大学と病院と市民の連携</p>		<p>○ロコモティブシンドロームの予防対策を積極的に推進 *関節や骨、筋肉など運動器に障害が起き、「要介護」「寝たきり」となる「ロコモティブシンドローム」対策、横浜市が先進的に取り組んでいる</p> <p>○楽しくスポーツができる環境づくり *いつでもどこでも誰でも楽しくスポーツができるように</p>
<p>人権・福祉</p> <p>*みんなの自立意識が高いまち *人権、障害などの差別がなく、みんなが一緒に暮らせるように *人権・福祉、自立のサポート機関を</p>	<p>*制度はあるものの、聞かないと教えてくれない、おもてなしの精神がない</p>	<p>○子どものころから交流の場をつくる *いろいろな人種、障害のある人などと交流できる場 *子どもと高齢者の交流（敬老の日など）</p> <p>○福祉のまち枚方の復活 *どこでも相談できる</p>
<p>生きがい</p> <p>*高齢者の生きがいづくりを積極的にサポートするまち</p>		<p>○生涯学習市民センターの活用と内容の拡充</p> <p>○「生きがい就労」の場を提供する仕組み *元気な人はボランティア（高齢者） *場の提供：人の足りない分野では高齢者の出番</p>
<p>サポートケアの充実</p>		
<p>共通項目</p>	<p>*ここに行けばわかるという入口がない。知りたいことを見つけるまでが大変 *情報を知るポータルサイトがない</p>	<p>○広報活動の充実</p> <p>○ポータルサイトの設立 *市民、行政、大学の情報が誰でも見ることができるツールをつくる</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「医療体制が充実したまち」のほか、サポートケアの充実として「健康」「人権・福祉」「生きがい」があげられた。
- 医療体制が充実したまちに向けては、医療難民、介護難民をなくすこと、また、自宅で終末期を過ごせるように 24 時間在宅医療などのターミナルケアの充実が重要で、そのためにも、高度医療機関と町医者が連携することや、専門医の充実、医師がチームを組み地域を回ることなどの仕組みづくりが必要との意見があった
- 健康については、健康寿命の延伸を目指して、ロコモティブシンドロームの予防対策や、そのためにもいつでも誰でも楽しくスポーツができる環境づくりを進めるべきとの意見が出された。
- 人権・福祉では、福祉のまち枚方の復活を目指し、差別なくみんなが一緒に暮らせるよう、小さい頃から障害者や高齢者と交流できる場づくりが大切との意見があった。また、高齢者の生きがいをサポートするため、生涯学習市民センターの有効活用や、高齢者の就労の場を提供する仕組みが必要との意見があった。
- 共通事項として、様々な医療や健康、福祉の情報について、知りたいことがすぐわかるような広報の充実、特に、市ホームページでは、よりわかりやすいポータルサイトの設置などが必要との意見が出された。

C 班

テーマ『健康で心豊かに暮らすために』

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
身近に整備された公園のあるまち *毎朝、まちのあちこちでラジオ体操が行われている	*公園そのものが減ってきている *公園において禁止事項が多い	○古武道を通じた「心」と「体」の育成 *指導者育成への支援
いつまでも元気でいられる病人ゼロのまち *先進医療都市の前に、病気になる前に、いつまでも元気でいられるように	*医療のハード面は充実しているが、未病対策はハード・ソフト面がまだまだ *すぐ病院に行くようなコンビニ受診が多いが、まずは自分の体を知ることが大事 *海外では在宅での治療か病院での治療かを選択できる（する）仕組みがある	○教育（家庭教育）の充実 → 病院の利用、薬、生きがいについて *医療にすべて依存しない *家庭教育が重要、親の教育が一番 *地域の中で相談できるように *家庭内や学校の保健体育の授業において教育するなど、未病に対する社会全体の雰囲気づくりが必要 ○医薬分業のシステムづくり *医療機関と薬の提供機関の役割分担が必要
趣味やボランティアをする人・したい人のサポート体制が整備されたまち *心に余裕のある人が多いまち	*いろいろな組織があるが、十分にサポートされていない（生涯学習など）	○活動するための場所の確保と情報発信 *活動している団体の情報の発信 *身近な活動があれば元気につながる
子育てがしやすく、親子が安心して暮らせるまち	*東京では子育て支援のネットワークがある	○気軽に相談できる体制づくり *かけこみ相談ができるネットワークづくり *孤独で身寄りのないひとり暮らしの場合でも安心
		○ワーク・ライフ・バランスの充実 *行政が企業を健康面でサポートすることが必要。企業誘致につながり、税収増にもつながるのではないか
共通項目		○積極的に活かされる税金の使い方 → 医療と健康づくりのための予算のリンク *健康づくりへの投資が実感できるまち *よりよくしていくための未来への投資 *テーマに応じた目標設定をしっかりと→評価基準が大切 *税金の循環。例えば削減したお金を公園整備に回す等、わかりやすいお金の流れ ○行政サービスのコンビニ化 *必要な時に身近で行政サービスが受けられるように

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「身近に整備された公園のあるまち」「いつまでも元気でいられる病人ゼロのまち」「趣味やボランティアをする人・したい人のサポート体制が整備されたまち」「子育てがしやすく、親子が安心して暮らせるまち」があげられた。
- 身近な公園については、毎朝ラジオ体操が行われるような場を整備すべきで、古武道を通じた心と体の育成などが必要との意見が出された。
- 病人ゼロのまちに向けては、未病対策や生きがいにつなげる観点から、病院や薬に依存しない暮らしを心がけるべきで、そのためにも家庭教育を充実することが必要との意見があった。
- ボランティアのサポート体制については、活動する場所の確保と活動をしている団体の情報発信が必要であり、また、子育て親子の安心な暮らしに向けては、気軽に相談できるネットワークづくりが大切との意見があった。
- ワーク・ライフ・バランスの充実も必要で、行政から企業に対し、ソフト面を含めて健康をサポートする対策を進めることで、企業誘致、税収増にもつながるとの意見があった。
- 共通事項として、適切に目標設定を行う中で、健康施策に効果的に投資することで、医療費削減による財源創出につながり、その財源を更に活用していくといった循環を図るべきとの意見が出された。

D 班

テーマ『健康で心豊かに暮らすために』

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
24 時間対応できる医療のまち *医療、病院の診療日、時間が偏りすぎているので、午後、夕方、夜なども医療提供してほしい	*医療機関の多くは土日が休みであるため、診療先が限られている	○各病院相互の協力体制づくり *人員配置、看護体制について、いろいろとハードルが高いと思うが医師会と各病院の相互協力が必要（診察時間の延長に向けて） *救急指定されている病院を地域にも設置し、病状によっては搬送も行う
医療コンシェルジュがあるまち *病気の人がほぼゼロのまち *どこの病院へ行ったらよいか相談できるような仕組みづくり		
幼児・児童が健全に成長できるまち		○家庭、学校、地域の交流・連携で見守り *東牧野では毎朝ラジオ体操を実施しており、他の地域へ広げていく *毎日、畑の散歩が楽しみ
健康づくりができる環境のあるまち	*河川敷にトイレがない	○淀川堤防の環境づくりへの参加 ○自転車利用しやすい距離標識の設置 *堤防の自転車道 ○焼却熱を利用した温水室内プールの設置
高齢者と若者が交流するまち *高齢者は若者と仲良くすること *高齢者と子どもと一緒に健康で生き生きと暮らせるまち		○多世代の人が楽しむことができるイベント等 *年齢制限のないコンサート等イベントの実施 ○3世代交流（高齢者・大学生・子ども） *大学生が中間支援 ○ボランティアの適材適所での活用 *受ける側のニーズと提供側との適切なマッチング *有償ボランティアの活用 ○大学生のボランティアとしての活用、高齢者が気軽に大学へ出向いていける開かれた大学 *高齢者が大学へ行って、手伝ってほしいことを募集
市民や外国人など人権意識の高いまち	*人権意識は各事業所、従業員によって非常に温度差があるため、一人一人、人権啓発意識を持つべき	○人権意識を高める研修や教育 *SNS 利用時における人権意識の向上（特に学校など） ○外国人への日本マナーの伝達
高齢者などの施設サービスが充実したまち		○福祉の場で従事者が働きやすい環境づくり *介護福祉士などが働きやすい環境整備 ○福祉の専門家が相互啓発 *福祉の専門家が相互に交流・啓発し、各施設の利用者サービスを検証できるように

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「24 時間対応できる医療のまち」「医療コンシェルジュがあるまち」「幼児・児童が健全に成長できるまち」「健康づくりができる環境のあるまち」「高齢者と若者が交流するまち」「市民や外国人など人権意識の高いまち」「高齢者などの施設サービスが充実したまち」があげられた。
- 医療に関しては、診療日時が偏っているため、病院の相互協力などにより 24 時間対応できる医療体制の整備や、どこの病院へ行ったらよいか相談できる医療コンシェルジュなどが必要との意見が出された。
- 健康に関しては、幼児・児童が健全に成長していくために、家庭、学校、地域の連携が大切であること、また、健康のための環境整備として、自転車利用など淀川堤防の環境づくりが有効との意見があった。また、高齢者と若者の交流は、健康でいきいきと暮らすために必要で、3 世代（高齢者・大学生などの若者・子ども）の交流を促進するため、高齢者や大学生が相互に交流を深めていくべきとの意見が出された。
- 人権では、人権意識を高める教育が大切で、SNS 利用時における人権意識の向上などが必要との意見があった。
- 高齢者などの施設サービスの充実に向けては、施設の従事者が働きやすい環境づくりや、福祉の専門家が相互に啓発することなどが必要との意見が出された。

各班から出された主な意見

○「生きていく力を育む教育」を
～学校・家庭・地域の連携が大切～

全班に共通して、子どもたちの生きていく力を育むべきとの意見が出され、社会や自然を感じる体験学習や障害を持つ子も持たない子も共に学ぶことなどが大切で、コミュニケーション力を養う必要があるとの意見が出されました。そのためには、学校・家庭・地域の連携が必要で、家庭教育・親教育の重要性や、高齢者や大学生など地域ぐるみで子育てに関わることの大切さについて意見がありました。

○「安心して産み育てられるまち」に

安心して産み育てられる環境を整備するため、保育所の拡充により待機児童をなくすことや、男性が子育てしやすい環境づくり、若い夫婦が生活しやすい住環境の整備などが必要との意見が出されました。

○「世代に関わらず誰でも気軽に学べるまち」に

全班に共通して、あらゆる世代の方が、身近なところで気軽に学習でき、生涯、生きがいを持って学び続けることのできる環境づくりが必要との意見が出されました。そのために必要なこととして、生涯学習市民センターや学校図書館の有効活用、大学との連携、歴史文化資料館などの設置のほか、学びの場の広報・PRの充実などの提案がありました。

○「誰もが楽しくスポーツができるまち」に

誰もが楽しくスポーツできる場をつくる必要との意見が多く出され、新たに参加する方が参入しやすい仕組みをつくることや、種目の重点化などにより、世界に通用する選手を輩出できるようなまちになればとの意見がありました。



※上段左からA班・B班、下段左D班のワークショップの発表内容
(※参加人数の関係により今回はA、B、Dの3班で実施)

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
<p>安心して産み育てられるまち</p> <p>*若い人（女性、男性）が安心して子どもを産み育てられるまち・環境</p> <p>社会を学べる教育</p> <p>*勉強だけでなく社会を学べるシステム</p> <p>障害を持つ子も持たない子も共に育ち、共に学ぶまち</p> <p>競い合うのではなく、助け合い・協力することを芯にした豊かな子育て・教育</p> <p>*落ちこぼれても大丈夫なシステム</p>	<p>*親がしかり方を知らない</p> <p>*人づきあいの中で本音を話せない</p> <p>*仲間同士でも子どもを注意できないなど気を使い過ぎ</p> <p>*子どもに厳しくする場面が必要</p> <p>*子どもたちが、家庭の中で生活のことをあまり学べていない現状がある。（例えば、ペットボトルのお茶ばかり買っているため、茶葉・お湯を急須に入れてお茶を出すことを知らない子どもがいるなど）</p> <p>*許容が小さい（虐待など）</p> <p>*個性を尊重といいながら同一性が重んじられている</p> <p>*昔は、普段の生活の中で自然に生きる力を教育されていた</p>	<p>○親を育てる教育</p> <p>*子どもを育てるには親の教育が大切</p> <p>*親になる前から親になる教育が必要</p> <p>*親に対して学校の毅然とした対応が必要</p> <p>○“生きていく力”をつけるための教育（学校・家庭）</p> <p>*今、学んでいることが生きていく力につながっていることを教える教育</p> <p>*家庭の教育があっても、学校の教育がある</p> <p>*卒業して学校に守られなくなっても学べるような、集える場が必要</p> <p>○多様な選択肢が持てる教育</p> <p>*人生にはいろいろな道があるから楽しいと思える教育、職業</p> <p>*引きこもりや不登校になっても学びなおしが容易な制度</p>
<p>地域を含めた教育</p> <p>*他人の子どもにも関心を持つまち</p> <p>*子育てにご近所さんが一緒に関われるまち</p>	<p>*子どもを過剰に守る方向に向かっている（社会全体で過保護になっている）</p> <p>*気軽に相談できる場がない</p>	<p>○地域に開かれた子育て・教育の場</p> <p>○子育てと生涯学習をリンク</p> <p>○気軽に学べる場所・集う場所</p> <p>*ふらっと集まれる場所</p> <p>*テーマに沿ってみんなで集まって話せるような場所</p> <p>*相談できる場所</p> <p>*各校区に1箇所程度あるとよい</p> <p>*学校図書館の活用</p> <p>*空き教室があれば活用する</p> <p>*新しい箱物は不要</p> <p>*人の集まるフリースペースやカフェの一つとして活用</p> <p>*学校施設の活用は防犯上の問題あり</p>
<p>生涯学習</p> <p>*社会に出た若い人も気軽に学べる場所</p> <p>生涯学習に身近なところでふらりと参加できるまち</p> <p>みんながスポーツに参加できる体制</p>	<p>*サークルはあるが、参加しづらい</p> <p>*学校図書館は和むスペースだが、子どもが利用できる開館時間が短い</p>	<p>○生涯学習で収入を得る仕組みがあればよい（身につけた技能を生かして）</p> <p>*学んだことを収入に結び付けたい、やりがいに繋がりたい</p> <p>○社会人が身近に学べる場所（寺子屋、小学校）</p>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「安心して産み育てられるまち」、「社会を学べる教育」「地域を含めた教育」「生涯学習」があげられた。
- 安心して産み育てることができ、社会を学べる教育を進めるためには、障害を持つ子も持たない子も共に育ち学ぶ環境づくり、競い合うだけでなく助け合い協力することの大切さや生きていく力を身につける教育が必要で、そのためには、家庭の教育（親の教育）が重要との意見が出された。
- 地域を含めた教育に関しては、近所の人たちが子育てと一緒に関わるような環境づくりが大切で、地域に開かれた子育て・教育の場づくりを進めるべきとの意見があった。
- 生涯学習については、社会に出てもあらゆる世代の方が身近なところで気軽に学習（相談やスポーツも含む）できる・集える場所を確保することが必要で、その1つとして学校の図書館などを活用することなどの提案が出された。また、学習により身につけた技能を生かして収入が入る仕組みがあれば、やりがいに繋がるのではとの意見もあった。

B 班

テーマ『子どもを育み、学び続けるために』

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
待機児童をゼロに! *幼児を増やす(人口減の防止)		○官民(特に官)の育児所の増設 ○安心して育てることのできる環境整備 *建物の防災対策等
コミュニケーションがとれる子どもを育むまち *たくさんのお会いがあり、感性豊かな人になれるまち *自殺等がなくなるように、コミュニケーションの上手な子どもが育つまち *いじめのない、みんな一緒に楽しく学べるまちになれる	*小学校(45校)が多いということにはメリット、デメリットがある。一斉に取り組む場合に予算が必要となる一方、地域ごとの取り組みがやりやすい *地域の活動に子どもが参加しても親は出ない *家でしつけができていない。親を育てないと子育てができない *先生は親への対策が必要になっており、子どものことは二の次、三の次になっている	○学校で親と子が学べる場があればいい ○学校教育の充実 *民間からの校長の登用 *6・3・3の教育内容の割り振りの検討 *土曜日に授業をして、学力低下を防ぐ ○誰でも教え、学べる学校をつくる *年齢、障害の有無に関係なく誰でも教え、学べる学校 *障害のある子と一緒に学ぶ→思いやりで、いじめがなくなる *官民交流：平日の授業に企業の人を呼ぶなど *福祉の視点、心の学習の視点が必要 ○生涯学習と学校のリンク *土曜日学習の利用。毎週いろいろな人が教える。企業や地域の方、大学生
国際人の育成(スポーツなど) *世界一の選手がたくさん輩出されるまちになれる *オリンピック種目を重点に人材を投入するまち	*スポーツ選手、技術を持った人が育成に携わっていない	○楽しくスポーツができる環境づくり *いつでもどこでも誰でも一緒に楽しくスポーツができる場づくり *スポーツに力を入れてほしい。予算の充実 ○スポーツ種目の重点化・特化 *ラグビー、レスリングなど
誰でもどこでも学べるまち *すべての市民が、生涯で喜びと生きがいを持って学び続けることができるまち *定年後も学習したくなる環境づくり *歴史文化遺産を保存するとともに、これに関する情報発信と教育面での取り組み策を積極的に推進するまち	*生きがい、生涯学習にどこから手をつけたらいいかわからない *生涯学習市民センターはあるが、具体的にどう活用していくか	○大学との連携 *大学の講義を受けられるようにする。門戸を開く *行政と大学が協同して生涯学習プログラムを作る ○子どもたちに教える人材としての高齢者の活用 *高齢者との交流 ○身近に目標を持てるような教育 *スポーツなどの技術の継承 *スポーツ選手など(OB、OGでもいい)プロ級の選手に教えてもらう機会づくり ○学びの場の情報発信 *ホームページ、広報などで学べる場のPR、ポータルサイト ○図書館の利用度を高める ○歴史文化民俗資料館のような施設をつくる *検討中の総合文化施設整備計画に組み入れるのも一策 *施設をつくるのではなく、学校を活用して、学校の中につくるのもおもしろい

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「待機児童をゼロに!」「コミュニケーションがとれる子どもを育むまち」「国際人の育成(スポーツなど)」「誰でもどこでも学べるまち」があげられた。
- 待機児童ゼロに向けては、人口減を防ぐためにも施設の防災対策など安心して子育てできる環境整備が大切で、官民(特に官)による育児所(保育所)の増設が必要との意見があった。
- コミュニケーションがとれる子どもを育むためには、地域の高齢者や大学生、企業の人子どもたちに教える機会をつくることや、障害のある子と一緒に学ぶこと、家でしつけができる親を教育することなどが重要で、いじめや自殺のない環境をつくるのが大切との意見が出された。
- スポーツなどの国際人の育成については、いつでもどこでも楽しくスポーツができる環境をつくるべきで、スポーツへの予算化・種目の重点化などにより、スポーツのみならず世界に通用するような人材が輩出できればよいとの意見があった。
- 誰でもどこでも学べるまちについては、生涯、生きがいをもって学び続けられるよう、大学と連携した講義の開催や歴史文化民俗資料館などの設置のほか、学びの場について効果的な情報発信が必要との意見があった。

D 班

テーマ『子どもを育み、学び続けるために』

こうなったらいいな	現状・課題	そのために必要なこと
子育て支援や子育て環境が充実したまち <small>*子育てのための支援の仕掛けが充実したまち</small>	<small>*生涯学習市民センターでは、障害者関係団体や保育・育児活動、音楽や料理活動など活動内容によって優先的に予約できる部屋がある</small> <small>*育児休業を取りやすくする必要があります</small> <small>*子育てサロンなど学生が手伝えるか→1~1.5歳児の子育て支援ができるので、大学生も参加してほしい</small>	○高齢者と子育て世代・子どもとの交流促進 ○保育所の拡充 <small>*待機児童を減らし、女性の社会参加を促す</small> ○男性の子育て推進 <small>*夫婦で協力できるように。育児のプチスクール開催</small> ○若い夫婦が生活しやすい住環境づくり <small>*府営住宅など</small> ○大学生との連携（子育てサロンなど）
0歳児からコンサートなど楽しめるまち	<small>*小さい子どもがいる場合、コンサートなどの予約を取ることが難しいが、実際には多くの人が参加できている</small>	○子ども主体のイベントづくり <small>*マーケット開催。子ども主体でお弁当づくりなど</small> ○小さな子どもがいる人も参加できるコンサートで交流を広げる
小中学生が自然に親しみ楽しめるまち		○農林水産業の体験授業カリキュラム設置 <small>*臨海学校、林間学校の復活</small>
子どもが元気で活気のあるまち	<small>*安心して遊べる場所が少ない</small> <small>*スマホやゲーム以外に楽しい遊びを伝えることが大切</small> <small>*防犯上の安全確保が必要</small>	○子ども主体の異文化交流・世代間交流促進 <small>*例えば、「英語×クッキング、スポーツ、読み聞かせ」など</small> ○子育てと生涯学習の連携 <small>*子育て世代も楽しめる生涯学習のメニューづくり</small>
子どもの健全育成ができるまち（学校、地域、家庭）	<small>*しつけ、虐待の問題</small> <small>*モンスターペアレント問題で学校が閉鎖的になっている</small> <small>*親の教育が必要、そのサポートも必要</small> <small>*先生のサポートも必要</small>	○体験学習の充実 <small>*例えば、作物を作るところから食べるところまでの体験（田植え～餅つき）、動物を育てるところから食べるまでを体験など</small> ○大学生との連携（枚方子どもいきいき広場など） <small>*親でも先生でもない人が参加するとよいのでは</small>
老若男女誰もが楽しめる生涯学習のまち	<small>*「広報ひらかた」で趣味サークルの情報は出されているが、誰でも参加できるのかどうかかわりにくい</small>	○生涯学習市民センターの充実 <small>*利用しやすく、様々なテーマの学びができるようにする</small> <small>*小学生とシニア世代の交流（囲碁など）</small> <small>*テレビなど話し合いのきっかけづくりが必要</small> <small>*新たに参加したい人が参加しやすくする</small> ○広報の充実 <small>*誰でも参加できる情報をもっと充実する</small>
老若男女誰もがスポーツを楽しめるまち	<small>*スポーツをする場が少ない</small> <small>*すでに参加している人はいいが、新規参入しにくい</small>	○気軽に参加できるスポーツの場づくり <small>*必要な時に身近で行政サービスが受けられるように</small>

話し合いの要点

- こうなったらいいと思うことでは、「子育て支援や子育て環境が充実したまち」「0歳児からコンサートなど楽しめるまち」「小中学生が自然に親しみ楽しめるまち」「子どもが元気で活気のあるまち」「子どもの健全育成ができるまち（学校、地域、家庭）」「老若男女誰もが楽しめる生涯学習のまち」「老若男女誰もがスポーツを楽しめるまち」があげられた。
- 子育て支援や子育て環境の充実に向けては、高齢者と子育て世代・子どもとの交流促進、保育所の拡充、男性の子育て推進、若い夫婦が生活しやすい住環境づくり、大学生との連携などが必要との意見があった。
- 子どもを育むためには、0歳児からコンサートを楽しめることや体験学習により自然と親しめる環境づくり、安全に遊べる場の確保、異文化交流・世代間交流の促進など、学校・地域・家庭が連携した子どもの健全育成が必要との意見が出された。
- 誰もが生涯学習やスポーツを楽しめるまちに向けては、新しく参加する人が利用しやすく様々なテーマの学びができるような生涯学習市民センターの充実、参加できる情報を効果的に発信する広報の充実のほか、気軽に参加できるスポーツの場づくりが必要との意見が出された。

各班から出された主な意見

○福祉の充実したまち

今後、より高齢化が進んでいく中で、高齢者に対する福祉のほか、障害者など誰にでもやさしいまちであるべきで、枚方市が福祉のまちと言われるようになるべきとの意見が出されました。

○子育て・教育が充実したまち

少子高齢化が進む中、子どもを安心して産み育てられ、教育に強いまちであるべきで、小中学生への自然教育や障害をもつ子どもへの教育を大切にしていくとともに、誰もが生涯、生きがいをもって学べるまちとして発信していくべきとの意見が出されました。

○健やかに暮らせるまち

枚方市の特徴である「医療施設や医療系大学」を活用しながら、健康寿命を延ばす取り組みを進めるなど、健やかに暮らせるまちとして特徴をつくっていくべきであるとの意見がありました。

○歴史・文化芸術のまち

恵まれた市内の歴史遺産などを生かし、他市の人が訪れる観光名所のほか、市の花“菊”をよりPRしていくこと、また、子どもたちに枚方市の歴史を伝えていくことなどにより、歴史・文化芸術のまちとして発信していくべきであるとの意見が出されました。

○世代間交流や地域連携が活発なまち

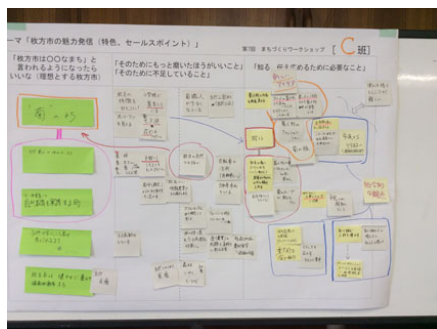
枚方市の特徴である「学生のまち」を生かし、地域と大学の連携など高齢者から若い世代までの世代間交流が活発になされ、校区コミュニティなどの活動が活発なまちと言われるようになるべきとの意見がありました。

○住みたいまち・住みやすいまち

枚方市の特徴である「多様性があり、全体的にバランスが良いこと」を生かしながら、豊かな自然、安全安心、交通の利便性など様々な分野で総合的に取り組むとともに、市のまちづくりに対し市民からの提案が生かされる機会を充実していくことなどにより、「住みたい・住みやすいまち」を発信していくべきとの意見が出されました。

～枚方市の魅力を知る・伝え広めるために～

枚方市の魅力をより効果的に発信していくためには、淀川や里山など地域に応じたブランドづくり、歴史遺産や菊などの観光の目玉づくりのほか、市の広報紙の充実やポータルサイトの立ち上げ、WEB・SNS等の活用により市民からの情報を活用することなどが有効との意見が出された。



※上段左からA班・B班、下段左C班・D班のワークショップの発表内容

A 班

テーマ『枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）』

「枚方市は〇〇なまち」と言われるようになったらいいな（理想とする枚方市）	「そのためにもっと磨いたほうがいいこと・不足していること」		「知る、伝え広めるために必要なこと」
魅力的なまち *様々な方向性がある *他市から見て魅力がある	[磨いたほうがいいこと]	[不足していること] *商業が衰退している	
世代間交流が活発なまち *6大学があって若者が多いのに交流ができていない	*6 大学との連携 *大学生は老人と接点をもちたいと思っている *大学生が大阪市内や京都に就職しても枚方に住み続けるように *津田サイエンスヒルズでは企業誘致を進める	*中高年（働く世代）同士の交流ができていない *30～50 歳代の地域活動 *子どもと老人の交流はあるが地域だけの狭い範囲の交流になっている *幼稚園児と小中高生の交流がなくなってきている *いろいろな企業団体があるが活かせていない	○行政、校区コミュニティ、6大学でまちづくり協定を *個々の取り組みを支える、大きな枠組をまず報道発表すればインパクトもあるしその後も動きやすい *1つのモデルがあれば、他に伝播する *大学生が地元就職し住み続けてもらう ○ネームバリューのあるものを広告媒体にして相乗効果をねらう *ひらパーやくずはモールなど
福祉の充実したまち *高齢者、子育ての福祉が重要	*福祉産業など良い雇用条件を整え、産業としての福祉を充実すべき *障害者に手厚いまちと聞いている *昔の枚方は「24 時間ヘルプ」とうたわれた	*多くの方が認知症に理解がない *孤独死をなくすシステムづくり	○広報ひらかたの活用 *広報ひらかたについてポイントをしぼり、福祉版を別に発行する（保存版タイプ） ○淀川または里山など地域によってブランドイメージづくり
多様性のあるまち *なんでもあるまちで、川や山もあり、市民活動も活発	*市民発信の活動がある（実はいろんな活動がある） *住民からあがってくる活動が多い	*情報発信（いろんなことがなかなか知られていない） *若者はネットで情報を取得するが、目的の情報しか目にしない	○行政は豊かな発想で *茨木市は総合計画づくりで 2,000 人に招待状を送り、自主活動成長グループを育成した *守りから攻めの発想に変えていく
交通の利便性がよいまち *枚方大橋南側より天野川までが常に渋滞			

話し合いの要点

- 今後、枚方市が、「魅力的なまち」「世代間交流が活発なまち」「福祉の充実したまち」「多様性のあるまち」「交通の利便性がよいまち」と言われるようになったらいいとの意見が出された。
- 世代間交流が活発なまちに向けては、高齢者・大学生・子どもなどの連携のほか、働く世代である中高年同士の交流を進めるべきで、地域の狭い範囲だけではなく、市全体でつながる交流が進めばとの意見があった。また、大学生が卒業後も枚方に住み続けてもらえるように雇用面での対策も必要との意見が出された。
- 福祉の充実したまちについては、福祉産業で働いている雇用条件を整え、枚方市で福祉に取り組みたいと思えるようにすることや、孤独死をなくす体制をつくるべきとの意見があった。
- 多様性のあるまちについては、川や山もあり、市民活動が活発であることなどが十分に知られておらず、より情報発信を行うべきとの意見があった。
- 枚方の魅力を知る、伝え広めるためには、個々の取り組みを支える大きな枠組みとして、行政・校区コミュニティ・6大学で協定を結び、インパクトのあるモデルとして発信することや、広報ひらかた福祉版の発行などの効果的な活用、淀川や里山など地域に応じたブランドづくりなどを進めるべきとの意見が出された。

B 班

テーマ『枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）』

「枚方市は〇〇なまち」と言われるようになったらいいな（理想とする枚方市）	「そのためにもっと磨いたほうがいいこと・不足していること」	「知る、伝え広めるために必要なこと」
<p>教育活動に強いまち</p> <ul style="list-style-type: none"> *学校版環境マネジメントの運用 *障害者教育制度 *枚方テーゼ 	<ul style="list-style-type: none"> *差別に対して敏感な風土がある（地域の子は地域でとの考えのもと、障害のある子どもたちの支援学校が設置されなかったことなど） 	<p>○子どもに枚方の歴史を教える</p> <ul style="list-style-type: none"> *枚方の良さをもっと子どもに伝えていく <p>○歴史を中心とした観光の目玉づくり（掘り起こし）</p> <ul style="list-style-type: none"> *ターゲットをしばったもの。例えば歴史に興味がある人に“おもしろい”と思わせるものなど *観光案内所などによるアピール
<p>余裕をもって住める</p> <ul style="list-style-type: none"> *「安全・安心」「産んで育てやすい」「子どもからお年寄りまで気持ちよく過ごせる」等 *「心のゆとり」余裕がなければ、渋滞でイライラしたり、PTA 活動もできない。ゆとりがあれば、花の美しさにも目を向けられる。人を助けようという心や環境への配慮もできる 	<ul style="list-style-type: none"> *市民と行政の協力体制 *行政の窓口がタテ割り *行政は守りに入る。バンバン言う市民が多く、行政が守りに入りやすい *市民の考えを吸い上げる信頼関係が必要。行政と市民が話し合えるテーブルが必要 *行政の方法論に民間的発想が不足している *市民には、自分に何ができるかという解決力、発想、コミュニケーション力が求められる *市民と行政は両輪。行政にやってもらうだけでなく、市民も補う協働体制が重要→意識改革 	<p>○マンパワーへの手助け</p> <ul style="list-style-type: none"> *団体に所属していると情報が入りやすい *やりたいと言った人を支えてあげられるような人のつながりが必要 *大学生などの人材を有効に使う
<p>やさしいまち枚方</p> <ul style="list-style-type: none"> *人にやさしい、自然にやさしい、環境にやさしい *年齢に関係なく誰に（学生、高齢者、障害のある方や外国人など）でもやさしい。昔は福祉のまちだった 		<p>○地域や行政が現実を知り危機感をあおる</p> <ul style="list-style-type: none"> *防災面や PTA 活動などにおいて、避難所運営での毛布の枚数や子どもが少ない状況について現実を知って動かすことも必要
<p>住みたいまち</p> <ul style="list-style-type: none"> *総合的な魅力 *様々な分野の総合的な充実 	<ul style="list-style-type: none"> *来てくれるまち（お客さんが来るまち）より住むまち。 *来てもらって、住んでもらえるようになるとうい *新たに住む人が地域の特徴を見つけにくい（コミュニティごとの違い） 	<p>○思いきった PR</p> <ul style="list-style-type: none"> *楽しくて思わず行きたくなる「ひらパー」のような PR *テレビ、取材の効果を活用 *「ひこぼしくん」はあるが、キャラクターを作るだけでは不十分 *マラソン大会など、交野市は上手にやっている。沿道の人の温かさを伝えるような方法が効果的
<p>広がっていくまち</p> <ul style="list-style-type: none"> *人のつながりからの魅力の広がり（大学に集まった学生から「枚方はいいよ」と広がるなど） *教養とコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> *発信ができていない（枚方独自の文化、枚方にしかないもの） 	<p>○ひらかたのポータルサイト立ち上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> *正しい最新情報を提供 *市民対応窓口においても相手の立場に立っているかどうか

話し合いの要点

- 今後、枚方市が、「教育活動に強いまち」「余裕をもって住める」「やさしいまち枚方」「住みたいまち」「広がっていくまち」と言われるようになったらいいとの意見が出された。
- 教育活動に強いまちでは、環境や歴史の学習、障害者に対する教育などの魅力を発信すべきとの意見があった。
- 余裕をもって住めるまちに関しては、心のゆとりこそが日々の安全や協力する気持ちなど、あらゆる面に影響するとの意見があった。やさしいまちについては、年齢、障害の有無、人種などに関係なく誰にでも、また、自然や環境にもやさしいまちをめざし発信していくべきとの意見があった。
- 住みたいまちに向けては、様々な分野において総合的に充実することが必要で、来てくれるまちよりも住んでもらえるまちとなるべきとの意見が出された。そのためにも、市民と行政の協力体制づくりが重要であり、行政が守りに入らず、市民の考えを吸い上げる信頼関係をつくるべきとの意見があった。
- 広がっていくまちについては、人のつながりを通じて、枚方の魅力が広がっていけばとの意見があった。
- 枚方の魅力を知る、伝え広めるためには、子どもに枚方の歴史を教えること、防災面などの課題について地域や行政がより危機感を持つこと、観光の目玉づくり、ポータルサイトの立ち上げなどについて意見が出された。

C 班

テーマ『枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）』

「枚方市は〇〇なまち」と言われるようになったらいいな（理想とする枚方市）	「そのためにもっと磨いたほうがいいこと・不足していること」	「知る、伝え広めるために必要なこと」
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">“菊”のまち</div>	<ul style="list-style-type: none"> *枚方の特徴をひとつに！オンリーワンを育てる *菊職人が少なくなっている *小学校で菊を育てる *関心をもってもらうことが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ○菊人形の内容を再度考える（新しいアイデア） <ul style="list-style-type: none"> *アニメの菊人形でも良いのでは。若い人に注目される菊人形が必要では *菊の服（ファッションショーなど） ○菊について教える＝教育の場・カリキュラムに取り入れる（小さい頃から） <ul style="list-style-type: none"> *市全体として取り組む *菊人形の職人になりたいとの思いの芽生えにつながる。菊のグループが教えに行くなど
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自然豊かで住みよいまち</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">小中学生に自然教育を実践するまち</div>	<ul style="list-style-type: none"> *枚方の自然とは何か 春：桜、夏：ホタル、秋：菊、冬：とんど祭 *天野川（七夕祭）をもっとアピールする *自然工法の公園をつくる *食（農業）の問題を真剣に考え、見直す必要がある *市内には体験農業ができる場所がある。都市からの交通の利便性を活かすべき *中山間地域に農業留学→過疎化対策 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報ひらかたを活用 <ul style="list-style-type: none"> *市民への周知 ○市の魅力につながる取り組みに参加する人材を増やす <ul style="list-style-type: none"> *取り組む人が増えると知る人も増える ○セールスポイントに関するイベントを実施し新聞報道を活用
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">子どもを安心して産み育てられるまち</div>	<ul style="list-style-type: none"> *少子高齢化をなくす。税金の使い道を少子高齢化対策に 	<ul style="list-style-type: none"> ○直接顔を見て市と話し合える場づくり（市民から行政へ） <ul style="list-style-type: none"> *市民同士のワークショップや市議会議員や市幹部との懇談・意見交換の機会など
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">健やかに暮らせるまち</div>	<ul style="list-style-type: none"> *自然とからめた医療。森林・癒し・ヒーリング効果 *自転車の活用（自転車走行レーンの設置） *自転車を持ち込める車両（鉄道）をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○重点的な予算配分（会社感覚での予算編成） <ul style="list-style-type: none"> *ふるしきを広げず、ひとつに集中

話し合いの要点

- 今後、枚方市が、「菊のまち」「自然豊かで住みよいまち」「小中学生に自然教育を実践するまち」「子どもを安心して産み育てられるまち」「健やかに暮らせるまち」と言われるようになったらいいとの意見が出された。
- 菊のまちについては、枚方市の特徴を“菊”の1つにしぼり、市内外の広い世代から関心をもってもらうべきとの意見が出された。
- 自然豊かで住みよい、小中学生に自然教育を実践するまちに向けては、春の桜や秋の菊などの自然をPRするとともに、体験農業など食（農業）を真剣に考える自然教育を進めるべきとの意見があった。
- 子どもを安心して育てられるまち、健やかに暮らせるまちに向けては、予算を少子高齢化対策に重点化することや、自然とからめた医療の充実、自転車による健康づくりなどの取り組みを発信すべきとの意見があった。
- 枚方の魅力を知る、伝え広めるためには、菊人形に関し新しいアイデア（アニメキャラクターの菊人形、ファッションショーなど）の検討や、教育の場（カリキュラム）に菊の育成を積極的に組み入れることなどにより市全体が菊のまちと認識できるのではとの意見が出された。また、市民が市政に意見を言えるよう、行政と市民が直接顔を見て話し合える機会を増やすことが必要との意見があった。

D 班

テーマ『枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）』

「枚方市は〇〇なまち」と言われるようになったらいいな（理想とする枚方市）	「そのためにもっと磨いたほうがいいこと・不足していること」	「知る、伝え広めるために必要なこと」
市民の提案が実現できるまち *地区・世代によってめざすところが違う *ワークショップの声が市政に反映され一体感のあるまち	*市民が声をあげられる場の充実（若い人の声など） *世代間の交流、「知」の交流 *大学との連携：医療系大学（健康寿命を延ばす取り組みなど） *先端医療産業誘致	○市民公開型ワークショップなど実践・事例の積み上げとPR *市民会館に数千人の人を集めて会議・情報交換 ○WEB、SNS等活用、情報開示 *リアルタイムの発信が重要、広報紙の充実 *市民投稿型のホームページやツイッター。ツイッターでフォローしやすいように（ホームページへのリンクではなく直接書き込めるようにする） *枚方つーしんでは月に145万PVのアクセス *アイコンを斬新的なものにする *枚方消防団のYouTubeのPRを参考に
安心・安全なまち *居住条件として重要	*コミュニティの強化	○コミュニティ協議会ごとに情報発信できるように
芸術・文化のまち *文化水準が高いまち	*文化会館に出かけやすい *枚方へ来た人が住みたく、働きたくなるまち	○既存の魅力をPRする、魅力をつくる *外から人を増やすためのPRが必要 *遊園地（ひらパー）がある（テーマパークが厳しい時代に残っているのもっとPRに活用） *名所旧跡の観光、定期巡回マイクロバスなどの運行 *自然環境の保全対策、防犯・防災対策、都市としての基幹インフラ整備、総合文化施設の早期建設 *生涯学習市民センターの充実、図書館の充実 *枚方市のプロモーションムービーを制作 *ブランド化（ネーミング、まちなみ）
わくわくするまち *自己実現ができるまち *クリエイティブなまち	*人が減らないように良いものをPR、魅力づくり【安全安心、基幹インフラ、みどり、駅前整備、待機児童0、待機特養0、生き生き学べる、歴史文化芸術】 *働いている人が休みの時にちよつと出かけていく場所がほしい *PTA活動への積極的な参加 *市立の施設を使うルールを市民が使いやすいように改善する。土、日に公共サービスが使いやすいように（ソフト面） *市民と連携した活動が必要（ゴミ問題など） *国際色を活かす	○枚方出身の芸能人を活用したPR ○若い人の集まる場が必要 *出会いの場、口コミ
豊かな自然、住みやすい住環境、安全安心に暮らせるまち 歴史文化芸術に恵まれたまち 少子高齢化対策を先進するまち 全ての市民が生きがいをもって学べるまち	*大学と校区コミュニティの連携	○45のコミュニティ協議会が活発で活動の場があるまちをつくる *45校区コミュニティ協議会の格差をなくす *校区の公園の運営をコミュニティ協議会にまかせて、市民が楽しむ場づくり（小学校だけでなく公園、会館など） *遠くに出かけにくい人が楽しめる場を近くでつくる *事例：高槻ジャズ→継続できるように行政の支援、市民の気持ちをサポート
大学が多い学園都市 *大学を生かし若い人が集る	*若い人が少ない、高齢化している→大学生も参加しにくい *校区コミュニティ活動が十分でなく格差もある	
45のコミュニティ協議会が活発なまち		

話し合いの要点

- 今後、枚方市が、「市民の提案が実現できるまち」「安心・安全なまち」「芸術・文化のまち」「わくわくするまち」「豊かな自然、歴史文化芸術、少子高齢化対策、生きがいをもって学べるなど暮らしやすいまち」「大学が多い学園都市」「45のコミュニティ協議会が活発なまち」と言われるようになったらいいとの意見が出された。
- 市民の提案が実現できるまちについては、ワークショップなど市民の声を聞く場の充実を図るとともに、市民投稿型のホームページやツイッターなどで市民の情報を取り込むことなどが重要との意見が出された。
- 安全安心、芸術文化、豊かな自然、市民が生きがいをもって学べるといったまちに向けては、外から人を増やすために、既存の良いものをPRしていくべきとの意見があった。
- コミュニティ協議会が活発なまちに向けては、団体の高齢化・若者の参加が課題であり、校区の公園や会館の運営を団体に任せ、市民が楽しむ場づくりに繋げていけばとの意見が出された。
- 枚方の魅力を知る、伝え広めるためには、WEB・SNS等を活用し、行政情報のリアルタイムの発信や市民からの発信・口コミを活用することのほか、コミュニティ協議会ごとの情報発信、枚方出身の芸能人を活用したPRなどが重要との意見が出された。